

第七回講義へのコメント

学習方法にも、時代背景が色濃く反映されるのだと感心関心を持ちました。人口の増加や、経済の発展など、今まで目を向けてこなかった分野からも大きく影響を受けていて、それらを考慮しながら日々学ばないといけないんだと思いました。

又、私たちの生きる時代は、受け身ではいけないこと、なぜ日頃、実践が大事、実践から学べといわれているのがこの講義を受けてよくわかった。それは、今の社会が下りエスカレーターで、先例にならっていくだけでは生きていけないから。そして、何をモデルにするのか自ら確かめなければならない社会であるからだと認識した。

今回の事業は、大学に入って受けた授業の中で最も刺激的で、有意義な90分でした。今の日本の状態と、経済成長の度合いなどを踏まえたうえで今後のキャリアについて考えなければならぬと思います。また、自分の足で動いて確かめに行くことも重要だと学びました。これまでは、親や親戚、大学の教授の方などの言うことを気にして、なかなか自ら積極的に動きに行くことがなく、あえて総合科学部に来た意味を見失いそうでした。しかし、今後はそういった先例ばかりを鵜呑みにせず、自分の目で見たいものを基に受け身の姿勢を脱却したいと思います。

確かに大学院に進んでいる先輩の話聞いていても大学での授業に興味を持ったという人はあまり見かけず、留学するという理由のほうが多かったです。留学先でのほうが勉強量が多く見えるというのもあり、大学での勉強の形態というものを見直さなければいけないのではないかと感じた。日本の大学での学習を面白いと思わせるような改革をしてほしいと思う。また学生も面白いと思えるように自分の興味の視野を広げていく必要がある。

今回の授業を受けて、今までの自分がとても甘えていたことに気づいた。というのもこれまでの私は「何でこんななんだろう、もっとあんならばいいのに」と思うばかりで、自分の力で本気で変えようと思ったことがなかったからだ。だから駅西あさごはんというプロジェクトを知って、私と同じ大学生でもあんなことができるんだというとてもいい刺

激になった。また、私たち大学生にはあれだけのことをするだけの大きなエネルギーがあるんだということにも気づかされた。

まだ夜が明ける前から仕込みなどの準備をする姿を見て大変そうだなと思ったけれど、同時に彼らはとても充実した大学生活を送っているんだろうなとも思った。自分の力で新しいことに挑戦せずに 4 年間の大学生活を終えるほうがいろいろなことに挑戦するよりも楽だし、実際そういう人のほうが多いと思う。だからこそ、このプロジェクトに挑戦した彼らはすごいと思うし、私もそんな大学生になりたいと思う。どんなことでもいいから、卒業するまでに、胸を張ってこれを頑張ったと言える大学生活を送りたい。

私たちは地方の問題が最先端の時代を生きなければならないので、都会の問題が最先端の時代の例を信じてはならないということ、だからこそ自分たちの意志で行動することが重要であるということがわかった。

クラウドファンディングで朝ごはんの話は、非常に興味深かった。学生だけでやっていたすごい、と思っていたが、本当は、プロや財力がある人の力が大きく関わっていたこと、同じ方向性を持つ人や利害の一致する人の協力があつたことが分かった。実は私の地元の夏祭りが、後継者がおらず中止になってしまった。地元の人と一緒に新しいイベントを立ち上げて、できれば毎年続けていけるように組織化したいと考えているので、参考にしたい。

今日は、名古屋市立大学の学生たちの映像を見た。彼らは自分たちで考えたお茶漬けを市民に提供することを目的にお店を開いている。資金を集めて、お茶漬けの味やどんな器がいいのかまで学生で考え、お客に喜んで食べてもらえるように、すべて自分たちの力で工夫していた。彼らの実行力の高さにすごいと思った。私は彼らから実践的に学ぶことの大切さを学んだ。自分で夢を描いていても、やってみないとわからなかったり、不可能なことも意外と多いかもしれない。実践してみて初めて新たな発見があり、そこから自分で考えることで、工夫やアイデアが加わり、初めて学んだといえる。私も大学在学中、実践的に学ぶ力を身につけていきたい。

今日の授業ではインターネットで寄付金を募って朝ご飯を食べることのできる店をその時間はやってない場所を借りて大学生たちが開き、地域を活性化させようと奮闘する内容

の映像などを見た。そんな大学生の活動は全体的に見ると地域活性化のためには微々たるものであるのかもしれないが、それでもこのような活動は地域にとって非常に重要なものであると思う。そのような地域を活性化するためになにかしたいとおもっても思うだけで実際に行動に移して実行しようとするのは難しい。大学生たちだけでなく、場所の提供やご飯のメニューなど大人の力をたくさん借りてでも朝ご飯を食べることのできる店を本当にだしたことは実行力があるし、本当に地域のためをおもって活動していると思った。いまはもうやってないそうだが、出して終わりではなく、ある程度の期間店をつづけたことなどもなかなかできることではないし、そのお店を出したことに対する発表のようなこともしており、次につながる活動であると思った。この活動で、朝店が開いてなくて困っている人を助けることもできるし、地域住民などともふれあうこともでき、地域とのかかわりが薄れていっているといわれる現代社会において地域のあたたかさをかんじ、地域のつながりなどもこのような活動を通して取り戻していけるのではないかなと思った。これを通じて大学生でも地域に協力することができるということを他の大学生が思っ自分もやってみようとなることにもつながると考えられる。実際自分自身にとっては店とかをだすのはハードルがたかいが、ボランティアに積極的に参加するなど自分にもできそうな活動を通して地域の人たちとふれあったり地域活性化に少しでも協力したいと思った。

どこかに所属していれば未来につながる時代は終わり、社会は個人化し人口減少社会に入った。時代によってキャリアは変わるので、講義を座って聞くだけじゃなくて自分で考えて動く力をつけなければならない。やりたいと思ったことをネットなどを使えばできるようになった時代に入っている、ので、まず何かやってみることが大事だ。新しいものを作り出すためには、現場に出て人とのつながりを作り、自分の目で確かめて、自分の意思で考えて行動することが必要である。

適当なところで段落を区切りましょう。

私はよく「前の人はこうしていたらしいから」と、先例を信用して、それを真似するというのを何気なくしている。しかし、今回の授業で、先例が必ずしも正しいとは限らなく、信じてはならないものだということを学んだ。これから自分に必要とされてくるのは、自分で考え、それを実践に移すということ。自分が新しいことをするというのは、不安でいっぱいなものであるが、名古屋市立大学の学生の映像を見て、自ら行動に移さなければ、得られないものがたくさんあるのだと思った。

私は、心理学について学ぶために心身健康コースを希望している。このコースに進みたいと考え出したのは、つい最近のことだが、そう決めてからは心理学に関係する本を読んだり、養護教諭であるため悩み相談を受けアドバイスをしたり、ストレスについても詳しく知っている母から、話を聞いたりしている。大きな動きとはいえないが、自分の将来の

ためにできることを考え、これからも行動していきたい。

今回の矢部教授の授業では、名古屋大学の学生による地域おこしの活動について学んだ。そこでは、学生でも教授や他の人々の協力を得ることによって地域社会に貢献できることを知った。徳島県でも四国大学の学生による産学連携の事業があり、私たちにもできることは多いはずである。今回の講義で自らが外の世界に出で行くことに積極的であろうと思った。

「今までは先生の言うことは当たり前に従わなくてはいけないものだと考えていたが、先生方の生きた時代と私たちの生きている時代は同じではなくて、人口拡大社会から人口減少社会になり、今までの常識はこれからの常識ではないのだから、正しいと思っていた先生の発言でさえも、自分で疑問を持って確かめていかなければいけない。」というのにはとても共感です。いつまでも誰かに頼るのではなくてこれからは自分の未来のために自分で正しい情報を集めていかなければいけないのですね。でも、名市大の人のようにやはり学生だけでは未経験なこともあり、大人の力を頼らないとできないこともある。そのときはチームとしてサポートし合いながら、自分の役割を果たし一歩前進できるようにしていかなければいけない。

現時点での自分たちの進路状況について社会状況が違う以上過去の成功談が役に立たないこと、液状化する社会では所属する団体で自分が決まらないということ、そして「クラウドファンディングで朝ごはん」を題材に自分の意思で行動することの大切さ、意思があれば挑戦する場所が用意されているということが授業で伝えられた。今までの授業、キャリアプラン入門では聞けないリアルな話が聞けてよかった。

現代は、スマートフォンやパソコンを使って、調べたいと思ったらすぐに調べることができる時代である。つまり、誰でも簡単に情報を得ることができるということだ。そのため、現代に生きる私たちにとって重要なのは、覚える能力ではなく得た情報が正しいか正しくないかを見極める能力だ。

現代は、個人化する社会でもある。所属と未来が繋がらず、所属によって自動的に未来が決まるとは言えない時代なのである。また、今の日本は都市部の人口拡大社会と地方の人口縮小社会が同時に存在している。一口に現代に生きると言っても、自分がどこで生きているのかによって見本とすべきモデルが異なるのだ。すなわち、成功例を元に同じことをしたからといってどこでも成功出来るわけではない。これまでの常識が通じない可能性があることを忘れるべきではない。

現代に生きる私たちは、昔と今では状況が異なるということを理解し、置かれている状況下で自分でしっかり考え、行動し、確かめる力を付けなくてはならない。計画だけで終わらせるのではなく、自分で実際に行動することが学ぶということなのである。

昔のやり方が今は通用しないけど、先例を学ぶことは大切なこと、自分たちで積極的に現場に出て考えることが必要だけど周りのサポートがとても大切なことを学んだ。

動画を見て「大学生ってすごいな」と思ったが、それにはたくさんの支援があつてこそだし、みんながみんな成功しているわけでもない。しかし、大学生が入っていくことで変わることもあるし、周囲の人たちを巻き込んでいくことが大切になってくるとわかった。今までは「誰かがなんかやるなら加勢しようかな」というような受け身の行動であつたが、自分で何かを作り出していくのも面白いのかもしれないと感じた。誰かにやらされるのではなく自分の意志でやりたいことに挑戦していくことに意味があるのだとわかった。

中途半端に終わらすのではなく、途中で失敗しても最後は成功させる意志を持って行動していこうと思った授業だった。

今回の授業から、人口減少の局面にある現在、人口拡大していた時代のキャリア教育では通用しなくなり、地方の問題について考えることが重要となっていることが分かった。そこで例に挙がっていた名古屋市立大学の事業は、地域の活性化に繋がる素晴らしい事業だと思った。また、クラウドファンディングとは、計画力と行動力がなければ実際に事業を起こすことはできないものだと思った。そして、様々な人との関係が、土地を「やどかり方式」で使用させてもらうことや、販売するメニューの味付けをプロの人に指導してもらったりすることに繋がることもあるという事を知り、事業を成功させるためには身近な人々の協力が必要であるということが分かった。

また、このような事業を成功させるためには「自分の意思」が重要になってくるということが分かった。成功させるという自分の意思がなければ、何事も最後までやり遂げることは出来ないと思う。

今回の授業を受けて、私も機会があれば、自分の住む街に貢献できるような事業を起こしたいと強く思った。

今回の講義を受けて自ら行動することの大切さを学ぶことができた。そして学部によつ

て職業は決まらないという事もすることができた。

学部によって職業が決まるというのは以前の人口増加しているときの時代であって今日では自分のやりたいことにどれだけ本気で取り組むかによってなることのできない職業はないのではないかと考える。

また、講義中に出てきた名古屋市立大学の学生には感銘をうけた。その企画を成功させるには多くの人たちが関わっているとは言え、企画を考え実際に行動を起こすというのを学生だけでやり遂げてしまうのはすごいことだと思う。その企画のおかげで街の活性化やその土地の PR になっていた。

これからは、自分でもやりたいことを見つけ学生のうちに行動を起こし、一つの経験としてやり遂げてみたい。

今までは、大都市の現状を見ておけば、日本の未来がわかっていたが、現在は、過疎化で悩む地方を最先端に考えなければいけない状況である。徳島県も、少子高齢化の進行や若者の都会進出によって人口減少している地方の 1 つだ。実際、私が住んでいる鳴門市の商店街も、シャッター街となっている。今日、動画を見た駅西と同じような状況だ。地域活性化させるために、自らが行動している学生の動画の中で、地元の人々とのつながりを深めることが大切だと言っていた。徳島県も過疎化で悩んでおり、地域活性化させるべきだと言われていることは知っているが、そのために何をしたらいいのかを私は、全くわかっていない。地元の人と交流を深めて、リアルな状況を、リアルに聞く必要があると分かった。また、ヤドカリ方式という、新鮮な方法は若者や起業に関心ある人々の支持を得ることができ、面白いと思った。このヤドカリ方式は、鳴門市のシャッター街でも試せるはずだ。現在は、情報社会のため、情報機器や SNS を駆使すれば、すぐに広めることができる。私たちも同じ学生だから、鳴門市でも試すことができるだろう。そのためには、いろんな業界の人々の協力が必要になる。人との交流を持つことの重要性、情報と人を上手に見極めることの重要性が分かった。

クラウドファンディングで見ず知らずの人から資金を調達し、そのお金で学生たちが自主的に名駅西周辺を活性化させようと行動する姿を見てすごいと思った。矢部先生が授業でおっしゃっていたように、私は地域を活性化させていく仕事に就きたいと考えているけれど、具体的な行動は起こせていない。名古屋市立大学の学生たちのように強制的に授業の一環で活動に参加するのではなく、自分の意志でやりたいと思ったことに進んで取り組みたいと思った。ビデオで見たような活動ができるようになるためには、町の人たちの支

えもあり学生もそのサポートを受けながら、朝ご飯を作っていた。最初から何でもできるのではなく、やる前の準備をしっかりとしてから活動を開始していた。学生たちは町のために、町が少しでも活性化するようにと町のことをきちんと考えていた。だからこそ名駅西の人々も学生たちの思いにこたえようといろいろなサポートをしてくれたのだと思う。

型にはまらず、先例を信じず、これまでの常識が通用するとは限らないから現場に出て考えろという言葉が印象的だった。私は自らの意志で挑戦したいと思ったことに取り組んでいけるようにしたい。

今回の授業は、前半が総合科学部の授業のありかたについてのお話だった。総合科学部では「キャリアプラン入門」という授業があるが、私は正直言って「この授業を受けて、将来役に立つのだろうか」と思っていた。今回の先生のお話を毎週聞いていたほうがよっぽどためになる、というのが今回の私の感想である。お話の中にあつた「先例を信じてはいけない」という言葉には自分の経験からも確かにそうだと感じた。私はここの大学の試験を受けるにあたって、面接の練習をしていた。その際、過去に徳大の面接を受けた母校の先輩方が書いた「面接シート」に書かれている「質問内容」を参考にして、先生と受け答えを何度もシミュレーションしていたのだが、面接本番では練習していた質問は一度もされず、ほとんどぶっつけ本番になってしまった。先輩方の「先例」はあくまでもその年にたまたまその質問をされただけであって、全く同じものが繰り返されるわけではないのだ。

就職でも、過去の人たちが「こうやって成功しました」と言っているときとは社会の状況が違ふかもしれないため、自分の力で道を切り開かなければならない。

後半は「クラウドファンディングで朝ご飯」と題して、名古屋市立大学の学生さんの自主活動についてのお話だった。学生さんの活動する様子を見て、自分には絶対できないなと感じた。まず地域活性化のためにお店を開こう、と考えて実際にそれを実行してしまう行動力が今の私には無いし、インターネットを駆使してクラウドファンディングでお金を集めることも、そもそもクラウドファンディングのことが未だよくわかっていない私にはできないことだ。しかし、これからの学生生活のなかで興味があつて、やってみたいことができたら勇気を出して行動したい。

自分に対して、大学の勉強は決して就職のためじゃなくて、自分のためです。自分が研究したいことがあるから、他人に変なこと言われても続きたいと思います。

矢部先生がキャリアプランの授業を意味がないと言っていて、衝撃だった。確かにあの授業はあまり意味がないと自分も思う。理工学部だからエンジニア、法学部だから弁護士といったように〇〇学部を出たからといって〇〇という職業に必ずなるということはない。矢部先生が、そう言っていてなるほどと思った。そのためにベネッセの調査をして、適性の職業を出してもらったのだと思う。

名古屋市立大学の学生が、名駅の西で朝ごはん屋をするというプロジェクトを見て、すごくいい活動だと感じた。地元の人に支えてもらいながらすることで、地域との輪が出来てから、そこから西側が発展していくからだ。

今回の授業では、総合科学部に来たからといって進路が決まるわけではなく、自分たちの状況にあった職を選ぶ必要があると学んだ。2000年前はたくさんの商品が売れていたが、2000年後では商品が売れなくなってしまう現状にあるのだ。将来自分の職を選ぶのは自分の意思で選ぶ必要がある。また、ビデオでクラウドファンディングで他人から資金を募金してもらい、始めた政策をやめられない状況を作るとはいい方法であると思った。

まず驚いたのが学生で店を出そうという発想です。店を出すのは1 から考えたり行動を起こすのはものすごく大変なイメージでした。ですがヤドカリ方式やクラウドファンディングなどで店やお金問題を解決していたのでこんな方法もあるんだなという風に勉強になりました。店を出すのは大変なイメージでしたが一つ一つを考えると意外と私たちでもできそうなことなので一度大学生のうちにこういう経験しておきたいなという風に思いました。高校3年生の時オープンキャンパスで他の大学で似たような活動をしている学部がありました。徳島大学でもそういう活動して是非地域を盛り上げていけたらなという風に思いました。最後に講演会などの後の一次会や二次会などで矢部先生が地域の人やそれに関わってくれる人たちとのコミュニケーションや人脈をものすごく大切にしているのが伝わりました。店を出すとまではいかななくてもいろいろな活動で地域の人とふれあい地域に愛される大学になってほしいです。

今回の講義は非常に面白い講義だった。学部長クラスの教授らをあれほどまで酷評でき、

更にそれがきちんと的を射ていると感じられる教師にはほとんど出会ったことがなく、非常に新鮮だった。法学部出は医者、教育学部出は先生といった偏見も、愛知教育大学を出て地元のジュエリーショップの店員をしている人や「実は私法学部を出てるんだよね」と言っていた世界史の先生を知っているので、それらと同じことなのだろうと共感できた。

今回の講義では、まず、総合科学部の今の時点での点数を聞かれたが、60点である。現在の総合科学部で受けている講義には、必修の講義と講義時間が被っていた故に取りたかった講義が取れなかった。確かに、現代社会に必要なスキル、食べていく上で考えなければならぬこともある。しかし、大学に入ったからには好きなことから学びたい。

自分もキャリアプランの講義がどちらかというところまらな思っていた。何せ、将来は小説家、食い扶持としては図書館司書を目指している。キャリアを決めると言われてもなりたいたいものは既にある。自分を固定化されるような感覚もあった。今回の矢部先生の講義でそれを多少なり解消できたと感じている。講義も大切だが、より好きな講義、将来への努力に力を入れようと思った。また、これからのキャリアに今までの常識は通用しないという言葉も、これまで就職や進学では先例が大事と考えていた自分にとっては心に残った。勿論、参考になるものもあるが、先例を盲信せず、批判的な精神を持って臨むよう心がける。

今回の授業では学んだことが多くあった。まず、現代において必要なことについてだ。時代というものは常に変化しており、過去の成功体験や常識は自分に当てはまるものではない。また、個人化する社会においては、どこかに所属していることが未来を決めてしまうというわけでもない。それゆえにホントかウソかを見極める能力、状況下で考えること、自分で確認すること、そして自分の意思で行動することが必要だと学んだ。次に、クラウドファンディングで朝ごはんのお店を運営する大学生たちからは、「やりたいことがあるならやったらいい、応援してくれてサポートしてくれる人は現れる」というようなことを学んだ。

これからの大学生活の中では自分から行動して、学問の面白さを実感したいと思った。

今回の授業で矢部先生が、今は入った学部と進路がかけ離れている時代だと言っていたのがとても印象に残っています。正直私はキャリアプラン入門の授業で先生たちが言って

いたように、法学部は弁護士、経済学部はエコノミスト、工学部はエンジニアになるというイメージを強く持っていました。だから、総合科学部に入って何をしたらいいんだろうと悩んでいます。でも、今回の矢部先生の授業で、学部によって進路を決める考え方は古いということに気づかされました。現在は少子化が進んでいて今までと状況が違うので、今までと同じ考え方をしても仕方がないんだと教えられました。

また、名古屋市立大学の学生が行っていた、「駅西あさごはん」というお店の企画を見ました。地域のまちづくりのために、細かい調査をおこなってお店を借りて料理を出すという大変な作業を最後までやり通した実行力がすごいと思いました。クラウドファンディングで見ず知らずの人から开店資金を集め、お店で出す材料を地元の市場で手に入れて、魚の切り方などをプロの料理人に学ぶという、現代的だけど人とのつながりも大切にしたプロジェクトだった。今の時代は、ネットとも人ともうまく繋がるのが大切だと思った。

ただ単に先例を信じてはいけないということを初めて知った。それを聞いて最初は驚いたが、実際に成功したある人の時代と、自分たちの置かれている今の状況とは違うということを知って納得した。人口の増減についてグラフを見てみると、急増、急減していることを改めて実感した。そして、急増している時代の人の体験談を聞いても、急減している時期の自分たちには当てはまらないから、そこにどう対応するのか考えなくてはいけない。

また、クラウドファンディングで朝ごはんの話を知って、自分と同じ大学生が、授業とか関係なく、自主的にそういう活動をしていることを知って驚いた。自分たちでこういうことを計画するだけでも簡単なことではないのに、実際にそれを行動に移せることがすごいと思った。自分たちの力だけではなく、教授など周りの人の力も借りたのかもしれないが、素直に彼らの計画力と行動力がすごいと思った。

昔は法学部なら弁護士、医学部なら医師といわれていた。固定型社会は変化の小さい社会であったため成功するための手本があり、それを常識としていた。それゆえ今までの常識、成功者のやり方に学ぶことが必要なことであるとされてきた。

しかし、現在は流動型社会と呼ばれ、変化の激しい社会である。それゆえ、成功者の手本が無く、常識が通用しないのである。そこでは自分で考え、自分の意志で行動することが重要である。

自分の意志で行動するためには本心に従い、それをやってみることが必要である。

留学をした人が海外の大学生はかなり勉強をしていたという。しかし、勉強をしている人は日本にもいるはずである。よって、海外の人がかなり勉強しているのではなく、徳大

生が勉強していないのである。徳大生が勉強しない理由は興味がわかず面白くないからである。

なので自分の意志で行動するためには本当に興味のあるものを大学の外に出て現場でやってみながら勉強することが必要なのである。以上が今回の内容を自身でまとめたものである。

自身の大学在籍中に実現させたいことは留学をすることである。人は今まで経験したことのあるもの、知っていることの範囲内でしか考えることができず、現在の目標もその範囲内のものである。留学は今まで見てきたものとは全く異なるものを見ることとなり、思考の幅を広げる手段になると現在の頭では考えている。現在の自身の問題点は2つある。1つ目は時間を作れていないことである。ここ1週間は目の前の課題で手一杯である。最低限やるべきことは普通にできるようになっておきたい2つ目は自身の考えを他者に話すことをためらっていることである。自身はまだ自分の目標としているものに対する知識もなく、何をすればよいか分かっていない状態である。なので他社に自分の目標としていることを話すこともためらっていた。しかし、名古屋市立大学の方の飲食店についてわからない状態からクラウドファンディングなどを用いることで協力を得ていき、目標を実現させる様子を見たことで、自身の考えを発信することの重要性を感じた。自分だけの知識や経験で考えても考えは浮かんでこない。他者に話すことで新たな情報、考えを得ることができる。自分の目標を周りの人に発信して何をすべきでかを見える形にし、行動して勉強していこうと思った。

今回の授業では、これからの自分にはいかに現場に出て、自分で何が必要かを学び取っていく時代を生きていかなければならないということを学んだ。個人化する社会では、どこかの集団に所属していることと未来は直接つながらない。だから先例を信じることは避けて、人によってキャリアは違うことを自覚する必要がある。特に、日本の人口推移の話では、人口が多く地域で増え続けていて地域の差が比較的少なかった時代は成功例をまねておけばよかったが、今の時代は人口減少社会ではあるが、日本の中で人口が増えているところと減っているところで差が大きく、住む場所によってもキャリア対応が異なり、ただ先例をまねていても意味がないという矢部先生の話には強く納得した。徳島大学での勉強はぬるいと学生に伝えてくれる矢部先生という存在がいて良かった。

現場に出て考える例として、授業とは別の自主活動で、ヤドカリ方式で朝ごはんを出し、地域の活性化を考える大学生について知った。この例を聞いて、自分もただぬるい授業を聞いているよりは、実際に現場に出て一歩踏み込んだ学びをしたという気持ちが強くなった。町が衰退しているから、なにか新しいことをしたい大人はいるが、大人は仕事などで忙しいからこそ、大学生に力を貸してくれると分かった。そしてやはり情報を得るときに

はインターネットだけに限らずメディアでも、うのみにそのまま情報を受け取ってはならないことを学んだ。

総合科学部は、医学部や教育学部のように入学して勉強をしっかりすれば将来の夢がほぼ決まるという学部ではなく、自分で考えて学ばないと未来につながらないと改めてわかった。それに加えて、現代社会は人口減少が進んでいる。さらに、AIが発達しロボットができることが増えてきた。これらのことから就職は厳しい状況であるといえる。そのような中で今日の授業は、これからのことを考える良い機会だった。「クラウドファンディングで朝ごはん」の内容から、学生たちの実践的な活動により、地域に活性に貢献でき、また、その町の人たちとのつながりを築けたと思う。実践的な活動を行う前に、まず、社会に目を向け、過去から現在までで変化したところを資料から理解していた。資料を使ってより具体的に理解できたと思った。そして、問題や課題発見につながり、実践的な活動を行った。これは、学校の一般の授業のように課題をこなして提出するだけで良いというものとは異なり、いろいろな人たちの評価に関わるため、技術が必要となってくる。だから、一生懸命やれば認められるというわけではない。実践的な学習は、普段の学習と大きく異なることがわかった。また、日々変化する現代社会の問題、課題の発見、解決につなげられると思う。変化を理解するために、外の目を向けることが大事である。

今回の授業では、大学でどのような力を身に付ければよいのかについて学んだ。

近年日本は、少子化が慢性的な問題となっていた。しかし、これから先の将来は、それだけにとどまらず、人口の急速な減少が予想されている。私たちは今まで、「先人のやり方に倣え」ということで、事業に成功してきた人たちのサクセスストーリーを聞く機会をたくさん設けられてきたが、これからはその人たちと同じようなやり方で成功しようと思ってもうまくいかない。なぜなら、その先人たちがモノづくりを行ってきたのは人口が急増し続ける時代だったからだ。人口が増えればそれだけ需要が増える。だがこれからは、モノを作っても売れない時代が来る。人口が減少し続ける社会で、売り上げを伸ばし、そして維持することが困難になるのだ。私たちはその時代に直面しようとする今、どのようにすれば生き残れるかを自分で考える力を身に付けなければならない。

自分で考えて行動する大学生の一例として、名古屋市立大学のゼミの学生たちが名古屋の駅西を活性化するために、朝ごはん屋さんを経営したことを紹介していただいた。この学生たちは、クラウドファンディングで資金集めをし、材料を地元の市場で仕入れ、自分たちで調理していた。しかし、学生だけで計画を実行していても成功はしなかっただろう。

その背景には、資金集めを知り合いに呼び掛けてくれたり、料理を教えてくれたり、店舗を宿借りさせてくれたりする大人たちがいた。学生たちが「やってみたい」と声を上げることで協力しようとしてくれる大人たちもいるから、自分から勇気をもって行動してみることが大切だ、と背中を押してもらえそうな内容の授業だった。

自分はこの大学生でいられる四年間をどのようにしたら有意義に過ごせるだろうか。やはり、勉強もきちんとしなければならないが、何か外の活動に参加して、余計なことに精一杯打ち込んでみるのもよいと思った。

今回の授業の要点は、「自分で行動し、実践から学ぶ」ということだ。

現在日本は、個人化する社会である。どこかに所属していることと未来はつながらない。そのため、先例を信じてはいけないのだ。例えば、大学では正しいことを言うが、それは古い知識の場合がある。

また、日本は、かつての人口拡大社会から、2000年頃からの急速な減少傾向のため、人口減少社会へと変わっている。かつては大都市注目で常識が決められても、それは普遍的なものであったが、現在は地方に注目しなければならない。それは、現在は人口の増減が大都市でもバラバラであるからだ。大都市の常識にとらわれてはいけない。そして、自分で常識をつくらなければならない。

この上記から、自分で行動して現代の社会を知ること、実践から学ぶことが必要だ。

現在は昔と違い、個人化する社会で、どこに所属していることと未来が結びつかない。昔は人口が上がり調子で馬鹿でも生きていたが、現在はどんどん人口が減っている。昔の成功例をマネするだけではだめだ。今までの常識が通用しなくなっていき、自分で確かめる必要性が出てきた。また、大学院に進学した先輩は留学して、学問の面白さを知り大学院に進学しようと決めている人が多かった。つまり、徳島大学の授業はぬるい。だから、この人口減少の時代に対応するため、また学問の面白さを伝えられない現状を何とかするために、授業から1歩踏み出した実践型授業が必要だ。その例として挙げられたのが、学生が提供する朝ごはんというものだった。私がこの活動を見て、すごいなと思ったところは3つある。1つ目は行動力だ。多分、やりたいと思う人はたくさんいるだろう。就職にも有利そうだし、と思って。しかし、考えるのと実際行動するのでは使うエネルギーの量が全然違う。いろいろな不安もあると思うし、実際やるのはめんどくさいと感じる人もいる。だが、その中で行動したのはすごいと思う。自分の地元ではない、しかもヤクザがたくさんいるような町で行動しようとなったのは、本当に尊敬する。自分の意思で行動でき

ているのは立派だ。やはり、先生が言った、懇親会などが人々のモチベーションを上げるのにすごく役立っているのだなと感じた。そして、私も実際にやってみたいと感じた。実践的に何かするのは大変だと思うし、失敗もたくさんしそうだけど、終わった後の達成感はすごそうだなと思った。

2つ目は、とても協力的だった地域の人達だ。ヤドカリの形態で店舗を貸してくれた人も、鯛の切り方を教えてくれた人もみんな協力的だった。地域みんな、活性化するために何かをしたいと思っているけれど、自分の仕事が忙しいしなかなか行動できないという人が、若者が何かアクションを起こすことで、地域一体となって頑張っていく姿には、単純に感動した。地域みんなが日ごろから思っていることを、学生を起爆剤にどんどん実現していった。正直、そんなに協力的ではないだろうと思っていたので、少しびっくりした。名古屋出身ではない学生と名古屋の地域住民が協力するのも、お互いにいい刺激になるだろうと思った。これを機会に地域住民とどんどん仲良くなっていったので、本当にどこから来たとか、あまり関係ないのだと思った。また、インターネットで見ず知らずの人からお金を集めていたのも、やはり、協力したいという人がたくさんいたのだろうなと思う。

3つ目はきちんと考えて行動していたことだ。どんなに善意がある人がいても、やはりおいしくない商品は売れない。どうやったら売れるかをとても懸命に模索していた。また、朝ごはんというの、夜行バスがたくさん来るのに、早朝やっているのはファーストフードの店ばかりだから、ここに需要があるのでは、ということから朝ごはんになっていた。やはり、論理的に考えて、行動しているなと思った。やりたい、という気持ちの面だけで突っ走るのではなく、冷静な面も持って、慎重に行動することも大事なのだなと思った。クラウドファンディングで見ず知らずの人にお金をもらって、途中で投げでせないようにしたのも、すごく考えているなと思った。以上が私が朝ごはんの活動からすごいなと思ったところだ。

次に、逆に私がこの活動を見て、批判的に感じた部分を書く。私は、このような、学生が地域の人と協力して活性化、すごいね、みたいな記事やニュースを見ると、いつも偽善者っぽいなと感じる。どうせやっている学生も本当に活性化したくてやっているのは一部で、みんな就職に有利だからやっているのだろう、テレビは地域の人みんなが協力して、地域全体でやっていると言っているけれど、中にはとても反対する人や、すごく怒る人などもいて、みんながみんな自分の孫みたいと言ってかわいがってくれないだろう、テレビにはそのようなところを映してほしいなど考える。確かに、学生の行動力や協力してくれる地域の人はずいと感じるが、そうではない人も多少はいるだろう。そのような人々たちを無視して、みんなすごいね、と特集するのはおかしいと思う。

まず、「総合科学部に入って良かったか」という矢部先生の言葉で、これまでの大学生活

を振り返ることができた。この問いに対する私の答えは、「悪くはなかったが良くもなかった」である。もともと将来就きたい仕事が決めておらず、幅広い分野の勉強をするために総合科学部に入学した。実際に入学してみて、確かに一般教養科目の授業は他の学部比べて多く、幅広い教養を身に付けることができる学部である。しかし、一年次は他学部にも一般教養科目の授業はあり、そこまで大きな差ではないことがわかった。

また、法学部出身の人が弁護士や検察官になることが決まっていなように、入った学部によって将来が決まるわけではない。そのため、将来就きたい仕事が決まっていなから総合科学部を選んだというのは、理由になっていない。そうやって考えてみると、自分が総合科学部を選んだしっかりとした理由がないということに気づいた。しかし、今はまだ一年の六月で、いろいろな可能性が広がっていることは確かなので、自分の可能性を広げていけるようにしたい。

授業の本題である「クラウドファンディングで朝ご飯」の話聞いて、率直な感想としては、学生たちの行動力の高さに驚いたということである。米の炊き方さえわかっていな学生が店を開くことを決め、それを実行に移せるというのは本当にすごいことだ。さらに、その店は繁盛させることにも成功した。

一般の方で、「学生がおもしろそうなことやってるな」という興味から店に行った人は少ないだろう。つまり、知識もノウハウもない学生がやるからこそ人々の興味をそそることができたということだろう。学生である私たちだからこそ人々に影響を与えられることが他にもあるはずなので、そういったことに関心を向けていきたい。

私も高校生の時、高校生が主体となって企画、運営するイベントをしたことはあるけど、大人の方や大学生が手伝ってくれました。私の時も、コネから広げていく部分が少しあったので、似ているところがあるなと思いました。しかし、未開の地や、朝ごはんに視点を当てたり、ヤドカリ方式など、思いつかないようなことをして、やり遂げたところがすごい尊敬します。大学は高校よりも生徒数が多く、なにかやりたいと思ったら協力してくれる人もいると思うので、積極的に行動したいと思いました。

今日の授業を聞いて、大切なことはあらゆる状況下において自分で考えて行動し、確かめる必要があるということです。大学で教えてもらっていることは、間違いではないけれどそれは古いものであるということがわかりました。古いことから学ぶこともあると思うけれど、時代は変わっているということを強く主張されていると感じました。また、実践を通じて学ぶことも大切だと思いました。自分の目を見て、肌で感じ、体験することは講

義で聞くだけよりもとても効果があります。何事も自分の意志をもって行動することで、進みたい進路が見えてくるのだと思いました。

それに加えて、メディアの取り上げ方の違いも学びました。最初に見た動画では最初からすべてがうまくいってるように思えました。2本目のほうが、僕はいいなと感じました。事業を始めるまでの過程をみえたことで、自分たちもできるんだと思わせてくれました。

これから大学生活を有意義にするためには、自分の意志をもって、行動していくことが必要になってくるなと感じました。

「今は人口の減少している社会だから人口が増加していて物がよく売れ成功しやすかった時代に成功した人の話を聞いても意味がない。データを見る事も今とは違う状況下でのデータなので意味はない。これからも人口は減っていくので見るべきなのは地方だ」という話は最初こそどういうことか分からなかったが話を聞いているうちに納得した。頭に入れておく。

また「駅西朝ごはん」を考えたゼミの生徒さん方の行動力は見習いたい。なかなか意見を言えてもできないので実際にやってみることを重視したい。

情報リテラシーは中学校、高校でも口を酸っぱくして言われていたが「駅西朝ごはん」の動画のように悪意がないものについてはどう考えるべきか迷った。なぜなら明らかに悪意のあるものであればメディアは信用できない、もっと批判的にならなくては、と考えれば良いが悪意がなければ実害もないからだ。

今回の講義では現場に出て考える大変さを学んだ。また、メディアが自分のいいように見せ方を変えて情報を発信していることも改めて実感した。朝ご飯を提供するには、自分たちの貴重な朝の時間を削るだけでなく、たくさんの人からの助けを借りており簡単に朝ご飯の提供をやめることができないような状況に自らが持っていたのにストイックさを感じた。また、現在と過去とでは状況が異なっており、過去の栄光の人を手本にとったとしても必ずしも成功しないことや先例を信じてはならないことを学んだ。しかし、だからと言って、全く参考にしないというのも何かおかしい。今も昔も何か通ずるものがあるだろうからそれは参考にしたい。これから、どんどんと人口が減少していき、賢い人しか生き残れない社会となっている。また、私も一生懸命に何か物事を行ったとしても必ずしも評価されるとは限らないような年齢まで成長してしまった。どうやってこの苦しい社会を生き抜いていけばよいのだろうか。それを大学4年間の生活で少しでも知れたらいいなと感じる。

「現場に出て考える クラウドファンディングで朝ご飯」という講義テーマを見た時はいったい何をするのかと思っていた。しかし、講義が始まり、話がだんだん進んでいくと今回の講義の目的が明らかとなり、先生は次何を言い出すのであろうかと気になる、全体を通してそんな講義であった。とにかく今までの総合科学入門講座とは違った。

「リキッド・モダニティ 液状化する社会」。これは現代ドイツを代表する社会学者の一人であるバウマンが提唱する時代概念である。法学部→弁護士、医学部→医者という考え方が通用する時代はもう終わり、現代は個人化する社会。人口拡大社会から人口減少社会へと変わった日本は、馬鹿でも生きていける社会でなくなり、「何を成功とするか」という価値観も変わったため、自分たちの意思で行動できるかが求められる。そしてそんな時代だからこそ、現場に出て考えなければならない。「現場に出て考える クラウドファンディングで朝ご飯」という講義テーマを通して、今まで受けてきたキャリアプランの内容を、より具体的に、かつ現実的に、物事を進める上で実際に重要視されていることは何か、が少し分かった。それは、自分たちで企業を起こし、「周りの人たちを巻き込んでいく」ということである。自分が思っているよりサポーターはいるということ、そして確実にサポートをしてもらうには、二次会のセッティングが大切でもあるということだ。

初めに、2本の動画を見た。この事には大きく2つの意義があり、一つは、動画を見て大切である部分を抽出する練習である。普段の講義では、テーマが分かっただけで、レジュメまで配られる。しかし今回はそんなものは一切なしで、会話やインタビュー内容から自分で要点をピックアップし、まとめ^める。実際に現場に出た時と同じように行った。二つ目は、1本目と2本目の動画を見て、間違いを探すというものだ。メディアの報じ方によって事実とは異なることがある。それがよく分かるものであった。

名古屋市立大学の学生が自主的に行った「~~駅西~~朝ご飯」。大学の援助は一切なしで、ここまでやる実行力に驚かされた。と、同時に、もしかしたら自分たちも自らの強みを生かせば何かできるかもしれないと思えた。大学で何かしたい、何かせねばならないとは思っているものの、具体的に何をすればいいのかわからなかったのととても参考になった。

また、矢部先生のプレゼンが面白く惹きつけられた。話し方、話の展開の仕方も勉強になった。矢部先生は社会学的、批判的感想を求めていらっしゃるかとは思いますが、他の講義も同様、毎回納得し、楽しませてしまう。いつか討論できるくらいになりたいものだとも思った。

上記で第一志望のコースと第二志望のコースを明確に書いたが、正直まだ決めきれてな

い。私は国際系の高校で三年間英語を学び、徳島大学へ進学した先輩が国際教養コースへ進んだことに縛られてなんとなく私には国際教養コースしかないと考えていた。しかし、法学部なら弁護士、経済学部ならエコノミスト、とは決まっていないうに、大学から社会へ出るときと高校から大学へ進むときも同様あることに気づいた。今回の授業で今の社会は昔の固定観念からはどんどん変わっていていることを聞き、コース選択における悩みが少し解消された。

徳島県を活性化させたいという思いはあるが、どこへ就職すればいいのか、具体的にどのようなことをすればいいのか全くわかっていない。しかし名古屋市立大学の学生達が朝ごはん屋を開店したというビデオを見て、将来その方面に進むかわからないがビジネスについての勉強もしてみたいと思った。矢部先生がおっしゃったように、テレビで流しているのと実際は全く違うもので現実には厳しいことは徳島でも名古屋でも同じだと思うが、私が将来本当にやりたいことがビジネスならその方面も考えてみたいと思う。コース選択まで一年もない中、選択肢があり過ぎて後悔しない道を選ぶことができるか不安ではあるが、自分に残された短い時間を有効に活用し、もっと徳島のことを知ったうえでコース選択をしたいと思う。

今回の授業を聞いて、自分の将来就く職業は、学部では決まらないものなのだなと思いました。また、人口が減少している今の時代では人口が増えていた時代の人のやり方をそのまま真似するのではなく、自分の頭で考えて、体系的な知識やコミュニケーション能力を身につける努力をしなければならぬと考えました。

私が最も興味を持ったのは「クラウドファンディング朝ごはん」のときに聞いた、学生がクラウドファンディングを用いてお店を始めたというものです。最初は学生たちが自分たちですべて考えて実行に移して成功したのかと思っていましたが、そうではなく周りの人のサポートあってこそのものであるときいて、人とのつながりを広げたり強固なものにするためのコミュニケーション能力の重要性を明確に突き付けられました。

本日の授業を通してより深く知りたいと考え、自分なりに調べてみた。クラウドファンディングで資金の一部を調達し、駅西を繋ぐ、というコンセプトで行われたこの企画は本当に面白いものだと感じた。ツイッターやフェイスブックを利用し宣伝する事で多くの客が訪れている。駅西を訪れたいくなる素晴らしいまちづくりだと感じた。私も将来は徳島県を活気溢れる街にしていきたいと考えている。このような企画もあるんだと将来の自分に活かすことが出来ると感じた。

最初の映像だけを見ると、大学生だけで朝ご飯屋さんを経営してすごいと感心していたが、もう一つの映像を見ると米の研ぎ方を調べるくらい何もかもできていなかった。しかし、最終的に県外からもたくさんのお客さんが来てくれたのは、試食会で意見してくれた地元の方々や、鯛茶漬の作り方を教えてくれた店の方や、場所を提供してくれた焼き鳥屋の店の人などのおかげである。何か一つのことをしたいとなったときは、自分だけの力だけでなくたくさんの人にお世話になっているということを意識しなければならず、感謝の気持ちを忘れてはいけないと今回の授業で思った。

大学で行われている授業にとらわれない活動や考え方にとっても興味を持った。もっと自由な取り組みが行われるといいと思う。

最初の特集を見たとき、大学生でも簡単に商売ができるんだ、私もやってみたい、と思った。しかし実際は手間がかかり、たくさんの方々に協力してもらい実現することができたことが分かった。行動すれば進んでいくというわけではないのだ。活性化させるために案を出すだけでなく、実際に何かをすることはとても大変だと思う。現代は先例が通用しない時代になり、自分の意志を持ち、考えて行動しなければならない。そんな時代に生きているからこそ、「朝ごはん」の大学生のようにネットワークを行使して目標に向かう熱意を大事にしたい。現実はいかにいかないかも知れないが私も今まで手を出してこなかったことに挑戦したい気持ちになった。

同じ大学生が、地域のためにできることを考え、お米をとぐこともできなかった人たちが朝ご飯屋をすることは、とても難しいはずだが、本当に実行したことをすごいと感じた。先日キャリアプランの授業で大学院生が、院に行くと決めたきっかけを話してくださった。その時は気が付かなかったが、確かに、矢部先生が言うように院に行くと決めたきっかけは、ほとんど留学に行った時、海外の学生が徳島大学の学生よりも勉強をしていて、自分ももっと勉強したいと感じたからだ。留学に行った人も、朝ご飯屋を実行した名古屋市立大学の学生も、最終的には自分たちの意思で行動を起こしていることを今回の授業で

学んだ。人口が減少してきたことで、就職先も減少してきた現在、流れに任せたり、人任せにするのではなく、自らで就職先を探したりするなど、自分の意志で行動していく時代になっている。よって、私も今のままではいけないと感じ、興味を持ったことには、思い切って様々なことにチャレンジしていこうと思えた。

今回の授業では「駅西あさごはん」の取り組みを例に、実践から学ぶということについて聞いた。現在の社会は「個人化する社会」であり、自身の所属と将来がつながらない社会であるということ、また、人口縮小社会であり、人口拡大社会の先例は通用しないということ、それ故に、自分の意志で行動し自分の目で確かめることが重要であると学んだ。なんとなく考えているというだけで終わらせず、アクションを起こし、実践の中で学んでいくという方法は新鮮に感じた。私自身に不足しているものであるとも感じた。今後は実践からの学習も意識して、自分から行動を起こしてみたい。

今回の授業では「クラウドファンディングで朝ご飯」を見ました。このことから学んだことは「座学ではなく実際に現地に赴き体験すること」である。名古屋市立大学の人たちは名駅西を活性化させたいという思いからこのプロジェクトを始めた。前途多難な状況になりながらも様々な人に力を貸してもらいプロジェクトを実現した。大事なことは、「学んだことを生かす」である。それは、学ぶだけでは高校までの授業と何も変わらず、大学生になり、興味を持った分野で実行に移すことが重要だからである。授業動画ではシンポジウムの講演会の様子が映し出されていた。私が注目したのは講演会の2次会である。講演会に真剣に話を聞いた人たちが集まっている。こういうところでの話し合いは講演会に参加するよりも有意義である。その理由は、講演会は演説している方も聴衆も一方的なものである。質疑応答の時間もあるだろうが一時的なものである。と比較しても2次会は、演説した側も聴衆側もお互いに自分の意見をやりとりする。この行為は双方向の発信である。お互い質疑応答の時間では得られないものがある。それは、双方向的な意見の発信はその意見を深めることができる。そして相手を知ることができていい経験になる。

授業の始めに「現代社会は常識が通用しない」と先生がおっしゃっていた。そのことについて検証する。現代社会は目まぐるしい変化を遂げている。それは私たちがキャリアプランを考える際に考慮しなければならない。例えば、この仕事に就職したら安全であるということとはなくなりつつあるかもしれない。私達は大学で何を学び何を身につけなければいけないかを見つけることが大切である。何を学ぶかについては自分が専攻する分野や就職のために必要な一般教養、語学力などである。大学生活で身につけなければならないこ

とは実行力やコミュニケーションをなど仕事に応じて必要な能力は様々なものがあるが、このような能力を身につけなければこの先どのような職業でも生き残っていけない。

実を言えば私も総合科学入門講座やキャリアプラン入門の必要性に疑問を感じていた。そうは思いながらも、教授がおっしゃる言葉を鵜呑みにし、自分からは積極的に学ぼうとしていなかった。今考えてみれば受動的な態度をとっていたのに、授業に疑念を抱くのはとても自分勝手であると思った。自分の現状や社会の現状を知らないくせして、とやかく言える、権利は私にはない。そこで今回の授業で学んだように「現場に出て考える」ことが解決策であることに気づいた。まずは自分からの積極的な行動が必要であるのだ。実際に自分の目で見て肌で感じるように五感をフルに活用することで、社会の現状そして自分の現状を知ることができるはずである。そこで得た気づきが、名古屋市立大学の高原さんのように社会貢献へとつながることになるかもしれない。実際に現場へ出て自分の考えをもつ、この学びを大切にしていきたい。

今回の講義で改めて感じたのは自ら行動することの大切さです。今回の講義で取り上げられた名古屋市立大学の学生らによる駅西朝ごはんのように、自分たちで自分たちの街を良くしていこうとすることはとても大切です。今回の講義で自分の故郷でもこんなことをすればもっといいのではないかとみんな考えたと思います。でも行動に起こすとなればみんな躊躇すると思います。僕も躊躇すると思います。でもこの名古屋市立大学の学生のように行動すれば何か変わるはずですよ。

何か変わればまた次のステップにいける、このことの繰り返しでもっともっと自分たちの街は良くなっていくとおもいます。今回の講義を通して私も、自分の街を良くするためにできることをしていこうと思いました。

今回の講義でのポイントは時代の変化である。以前は所属していることと未来が繋がっていた。例えば法学部は弁護士などといったものである。しかし、現在は所属していることと未来が繋がっていないのである。そのような縛りがなくなり、先例を信じてはいけない社会となっている。なぜなら先例が生み出された時代と現在は真逆の道を辿っているからである。2004年より前の時代は人口が増加していた。しかし2004年以降は減少している。そのような現在に2004年より前の成功事例は当てはまらない。私たちは常に、今、ど

ういった状態であるか、何を成功モデルにするかと考える必要がある。そして、その判断を自分自身でするために知識を身につけなければならない。その知識を身につけるにあたって今の私たちは受け身的ではないか。本当に自分の意志で行動できているのかを考えさせられる講義であった。自分の意志で行動を起こした学生の例としてクラウドファンディングを利用した朝ごはん屋が取り上げられた。それはこの方法があっているかは分からないが何か行動を起こそうという強い意志が感じられるものだった。彼らの行動は、自分がやりたいと思ったことはどんどん挑戦していこうと、声に出してみようと、勇気がもらえるものであった。

私たちが今生きているキャリアと過去のキャリアは別であり、これまでの時代の勉強が役に立たないというお話や入った学部でキャリアがこていされているのは今はもう昔のこととどこかに~~しょぞく~~所属していることが未来に今はつながらないなどのお話は私がこの授業を受けるまで持っていた常識を覆すもので授業で先生のお話を聞いていて私が今まで考えていなかったようなことをたくさん聞けて、これから私がキャリアについて考えるときのためになりました。また、クラウドファンディングで学生の先輩たちが自分たちの町でお店を開き朝ごはんを提供する、駅西朝ごはんは多くの人たちに支えてもらいつつも自分たちのできることを最大限にやっていて、すごく情熱があり、行動力がある人たちだと思いました。実際にお店を構えて学生たちで店を経営するというのは非常に大変そうですが、現在ではクラウドファンディングで初期投資の資金を募ることができるので昔よりは学生たちで何か町おこしのために行動を起こすということがはじめやすくなって来ていると感じました。私も先輩たちを見習って積極的に行動を起こせるようにこれから頑張っていきたいです。

今日の高原さんの話を聞いて、私が大学生の内にやりたいと思っていることの参考になりました。まず高原さんの事業が成功したのは協力してくれた人に利益があるかどうかということと、高原さんの事業に意味を見出しといるかどうかということが関わっていると思いました。私は徳島に人を呼び込む為に共通の趣味がある人同士で集まりそのジャンルの第一人者を招いたイベントを定期的開催する団体を作りたいと思っています。その為に場所を確保したり、講師を招いたりする必要があります。このとき、今日の講義を聞いて事業への理解の他に協力者側にも利益がないと事業は成功しないと学びました。次に、高原さんの事業が成功したのは名古屋で事業を行ったからだと思いました。名古屋は元々人口が多く、交通手段も発展しているので県外からも「ツイッターで見たあの店に行って

みよう」と手軽に訪れることができるので成功したのでたり、同じようなことを徳島でも成功はしないと思います。先生もおっしゃっていましたが、現代は個人化の時代なので徳島は徳島に合った事業をすることが成功に繋がると思いました。

今回の授業では自分たちがまず一步を踏み出して何かに挑戦し、実現するまでの過程を学生たちの朝ごはん予屋さんという活動を通して学んだ。「一步踏み出せば世界が広がる」という言葉には私たちの学びには自分たちでは図ることのできない可能性が込められている。

先日、キャリアプラン入門の授業で大学での学びは高校までの学びとは異なり、受け身ではなく自分から向かっていくことが重要だと学んだ。私は地域創生コースに進み、将来は地方公務員として働き地元の活性化に尽力したい。そのためには大学生であるうちから、地域と関わり合いをもつことが必要だ。授業中に見た動画の中の学生たちは朝ごはん屋さんの開店に至るまで駅周辺の調査や店舗の確保、料理技術の習得、さらにクラウドファンディングで資金集め、どの過程においても学生たちが地域の方々や先生方とつながりを持って進められていた。また、学校とは異なる視点からの評価を得ることで多面的に自分の考えを見つめなおすことができるようになり、実現へと近づく。

大学は自由な学びの場である。その自由さを生かして学校から飛び出し学外の人とつながりを持つこと、そして何より新しいことに挑戦しようという気持ちを私たちは忘れてはならない。

名古屋で私たちくらいの学生が自分たちの作った料理でお店を出しているという事実に、自分たちもやろうと思えばできるのではないか。という意欲が出てきました。高校までの私は自分から行動を移すタイプではなくて、周りの人がやればやって、周りの人がやらなければやらないといった、人に合わせてばかりの人間でした。でも今回の授業で見た名古屋市立大学の先輩方や大学院に通う先輩、また今までの授業で私たちの前に出てきて話してくださった先輩方は自分たちの意思が強くて、自分がやりたいと決めたことをやるために勉強とかされていて、輝いていました。大学では積極的に、自分で行動にうつしていかないといけないよと聞いていたけど、今回の授業で改めて、自分から行動することの本当の意味を知りました。それは、名古屋の先輩方が私たちには考えられないような、お店をだすという大きなことを成し遂げましたが、その裏には先輩方の努力や、周囲の人からの支え、絶対このプロジェクトを成功させるという情熱があつてこそその成功でした。また、このプロジェクトはテレビでも放送されていて、見た時はテレビの内容を丸々信じこんで

しまっていたけど、本当は事実と異なるということも教えてもらって、いろいろな情報を知って、正しい、誤っているという判断が出来る力はこれからレポートを書いたり、プレゼンをしたりするのに大切だということも知りました。今回の授業は、自分たちから動くことの大切さと、発信された情報を全て鵜呑みにしないことを学びました。

授業で、実際に地域活性化に取り組む大学生の方々がいる事を知り、興味深く感じた。大学生が店を経営する事は特に金銭的な面で厳しい事だと思っていたが、クラウドファンディングやヤドカリ法のおかげで、大学生でも店を経営する事が出来る事に驚いた。特にヤドカリ法は、営業時間外の店舗を借りる事で、店舗を建てるより費用が安く済み、得である。そして、店舗を貸す店側も貸した店側の客に知ってもらう事が出来る良い機会になるのではないだろうか。似たような話で、鳴門渦潮高校の生徒が大道銀天街の店舗を借りて UZUcafe という駄菓子のお店を運営している事を思い出した。

また、Twitter での情報発信により店の事を多くの人に知ってもらう事が出来た話を聞き興味深く感じた。確かに、初めて行く店の情報を SNS で確認する事がある。そこで店の雰囲気などを写真で見ると、増々行きたいと思う。SNS をむやみやたらに使うのではなく、そのような情報発信のツールとして使う事で大きな宣伝効果をもたらすと感じた。

同年代の人たちが地域活性化に取り組む姿を見聞きして、何か人の役に立つ事をしてみたいと刺激を受けた。

今回の講義で重要だと思った点は、インターネットで調べた情報やニュースの内容が本当か嘘か、古い情報ではないかなどの的確な見極めをすべきだという点だ。また、キャリア教育に関しては先例をむやみに信じてはいけないと学んだ。特に日本(日本人)は先例を重んじる文化が強いと感じるが、変化し続ける時代を生きる私たちは、自分で確かめ物事を選択・判断し学んでいくべきである。また、実際に大学生が、クラウドファンディングで、集めた資金を使って朝ごはんを提供する事業を 2 つのニュースで見ることによって、それぞれの取り上げ方や取材の仕方によって、受け手の感じ方は大きく違ってしまふということを実感した。結果的には、事業の成功には専門家や地域の方々の協力が不可欠であると感じたが、地域に良い影響を与えられたという結果からも、実践から学ぶことの重要性を感じた。そして、大学は実践的な機会は提供してくれている。その機会を逃さないようにし、またその中でも自分が望むものであるか、必要であるかなどを考慮し実行していきたい。そのためにも提示される物事を多面的にみて適切な選択や判断ができるようになりたい。

まず1番の感想として、個人化する社会という言葉に共感しました。法学部に行けば弁護士になる、経済学部に行けば経済学者になる、ということはたしかに割合で言えば多いのだろうとは思いますが、あまりピンときていない部分もありました。(医学部や歯学部ならまだしも、経済学部や文学部に関してはそうならない人の方が多い気がします)。しかし、現代の社会は個人化していて、どこかに所属していることと未来が繋がらないということを知り、それを自分で確かめる時代になっているのだと実感しました。そういう時代なのだと今回の授業で分かったからには自分もその社会に適応して行かなければいけないと思いました。徳島大学では、そういったことに際して実践系の授業を増やしたり、留学制度を充実させたりしているので、私もそれらをうまく利用していきたいなと思いました。

また、クラウドファンディングでお茶漬け屋さんを開いた先輩方の行動力に感動しました。私も大学に入ったら何か大きなことにチャレンジしてみたいと思って入学しましたが、実際は何がしたい、いつまでしたい、それをするためにはどのような人々の協力が必要なのかなど、具体的に考えるまでも至ってなかったことに気がつきました。スライドを見ながら、先生が協力を募る人を取捨選択して(二次会まで行く人を見抜く話)いて、そうすべきなのだと分かりました。

今回の授業では、他の授業ではなかなか教えてもらえないことや他の先生方では言わない核心をついた話などが沢山あってとても楽しかったです。今回学んだことを今後の大学生活や就活の際に活かしていこうと思いました。

名古屋市立大学の学生の活動についての話を聞いて、自分と同じ年代の人が地域活性を実行したことを知り、本当にすごいと思いました。地域活性をしないといけないということは分かっているけど、それを実行に移すことや、どこに目を向けて計画していくかということは難しいからです。経費を削減するために、営業時間外の店を借りて営業する「ヤドカリ方式」で営業したり、資金を集めるのに、インターネットでの「クラウドファンディング」を行ったり、たくさん工夫されていて、すごく考えられているなと思いました。1本目の、順調に事が進んでいる様子のビデオを見た後に、2本目の、開店前のうまくいかずに試行錯誤している様子を記録したビデオを見て、米のとぎ方もわかっていないくらい何もできない状況からのスタートだったということにとっても驚きました。しかし、地元の市場

や料理人の方の協力を得ながら準備している様子を見て、ひとりでは無理でも、周りの協力が得られれば、大きな事業も成功させることができるのだと思いました。

法学部だから弁護士になるとか、今まではこうだったから今回もこうだ、というように先例を信じるばかりではなく、自分の意志で行動しないといけないと思いました。また、名古屋市立大学の学生も、わからないことをグーグルで調べたりしていましたが、今の時代、何でも簡単に自分で調べることができるので、わからないことを放っておいたり、聞いた話をうのみにするのではなく自分で確かめなければいけないのだと思いました。

1. 授業の要点

「大学の学び」は、どのような職業につながるのかは全体として定まっているものではなく、個人によって決まっていくものである。

先例や年上の人々の助言や意見は正しいものと思いがちであるが、必ずしも正しいというわけではない。時代の流れとともに、社会の状況は変化しているからである。実際、西暦2000年を境に人口は変化している。2000年以前は人口拡大社会で、2000年以降は人口縮小社会が始まり現在に至っている。年上の人々の成功例はもはや、かつての成功例なのであって、今では状況や環境が異なるがゆえに必ずしも役立つというわけではないのだ。

これからは自分の力で確かめる必要がある。クラウドファンディングで朝ごはんを営んでいる名古屋市立大学の学生のように、自分の意思で行動することが大切である。

2. 感想

自分より年上の人々の意見は、経験からアドバイスしてくれるので自分の夢に生かすことができるかと今まで思っていた。しかし、西暦2000年を境にこれほど人口の状態が変化していることを初めて知った。これからは自分で確かめていく必要があると感じた。自分より年上の人々の意見やアドバイスを聞くときは、人口拡大社会での例であることを十分理解したうえで、今現在の人口縮小社会ではどのようにしていくべきかを考えていきたいと思う。

クラウドファンディングで朝ごはんをしていた名古屋市立大学の学生さんが、クラウドファンディングでたくさんの方からお金をいただくことにより、朝ごはんのお店を営む夢を投げ出すことができない状況にできると言っていた。クラウドファンディングはお金を集めることができる以外の利点があることを学んだ。難しいことや大きなことに挑戦してみるときほど、壁にぶつかったりトラブルやアクシデントに苛まれたりすることはつきものになってくると思う。クラウドファンディングでのたくさんの人からの支援により、粘り強く立ち向かえたり、諦めずに逆境を乗り越えようとできると感じた。夢を実現したい時は自分を追い込むことも大切であると思った。"

今回の講義で「自分で考える」ということが大切だと学んだ。時代は流れるものであり、その時、社会が抱える問題も変わってくる。よって、過去の常識が通用しない場合もあり、先例だけを信じることは好ましくない。それゆえ、自分がどんな時代において、その時代の問題が何なのかを明確に理解しておく必要がある。

また、名駅西の鯛茶漬の話聞いて、周囲の人を巻き込むという発想が面白いなと思った。私も自分が生まれ育った徳島の地域活性化に役立ちたいと思っている。今まで高校生や大学生の取り組みの先例を見て、自分にもできるんじゃないか、やってみたらなんとかなるだろうという考えがあったが、しかし、今回の名駅西のより詳しい話を聞いて、現実はそのように甘くないのだと実感した。やはり、学生にできることは限られてくる。知識や経験が浅く、経済的な面でもやれることは少ない。そのことを自覚し、周囲の人の力を借りて作り上げていくことが大切だと思った。

私は今回の授業で、「現地に出て考える」という言葉について考えてみました。高校までの授業では、地域活性化について考えてみても、その地域の現状をデータ上で把握して対策を考えるだけでした。しかし地域活性化をする上では、現地の人とかかわって、現地の人声に耳を傾けなければ、理解できない問題もたくさんあると思います。そこでやはり、「現地に出て考える」ということは大切です。大学では、現地に出て学べる機会がたくさんあります。この貴重な機会を最大限に利用して、しっかり学んでいきたいと思っています。私は、今回の授業で、地域の人と話し合うことで、課題と問題点がより分かりやすくなり、なにが必要なのかということがはっきりするということがわかりました。なので、私自身、これから地域の人々と関わることで、より多くの問題解決に励みたいです。

今回の授業では、経営学部の学生たちがクラウドファンディングで朝ご飯が食べられる店を開店した話の紹介だったが、前置きとしての教授の話があった。キャリアプラン入門の授業でベネッセのアンケートを実施したのはひとりひとりの生徒に個別に対応するためである。なぜその必要があるかという点、現代は人口減少、都市が最先端ではなくなるなど状況がかわり、「個人化する社会」で、昔の先例を参考にするだけでは何も成し遂げることにはできないからだ。.....以上のことが、私が授業のなかで重要だと思った点だ。

この話を聞いて、受け身で大学生活を過ごさずに自分の目標は現実にして挑戦していくべきだと思った。

総合科学部に入ったからといって自動的に職業が決まるわけではない。今までの常識や成功モデルは参考にはならない。留学などの実践的な行動のような、自分で考えて何か行動できるかどうかの方が大事である。

ヤドカリ方式を使うのは地元の人とのつながりを深められていいと思った。大学生でも自分の行動次第でできることは広がると思った。自分の将来についても何となくではなく、大学での学びの中で明確にしていって、自主的に行動していこうと思った。

今回の授業を聞いて、私も大学生のうちにクラウドファンディングを集め街を活性化させるような取り組みをしてみたいと思った。私は今まで自ら何かに取り組むような経験をしたことがなく、いつも受動的に学生生活を過ごしてきたが、今回の授業で自ら一歩を踏み出そうとすればたくさんの可能性が広がるということを知り、大学生のうちにしかできないようなことをして自分のためになる経験を増やしたいと思う。また、矢部先生が今は液状化する社会であり、どこの学部にも所属しているかが未来につながらないとおっしゃっており、先例ばかりを追っていくだけでは、やはり社会の流れについていけないので、何をしたいかも今ははっきりと考えていないが、この4年間のうちに何か新しいことにチャレンジして、もっと主体的に動けるような人間になりたい。今回の授業は本当にためになる授業であった。

前々から、矢部先生が舌鋒鋭いということは存じ上げていたので、どのような講義内容になるのか非常に楽しみにしておりました。まず、総合科学部、カリキュラム内部の話など、「そこまで言うか」と思うほど本心を吐露されていて、非常に痛快でした。特にキャリアプラン入門、これに関してはやる意義がないと僕も思います。法学部を出たら法曹、経済学部を出たら商社云々とかなり前の講義でおっしゃっていましたが、それならば何故ベネッセの性格診断(適職)テストを受けたのでしょうか。もしかしたら、総合科学部は多方面の専門分野を有しているから、様々な方面の進路に対応していて、画一的ではないとでもおっしゃったのでしょうか。今の時代、法学部出身だから将来は法曹で確定なんて有り得ません。むしろ、将来の進路に出身学部は(ほぼ)関係ないというのが世間一般の常識ではないのでしょうか。正直、キャリアプラン入門という講義は、過去ばかり見て、現在を置いて行ってるように感じます。キャリアプランと銘打っているのだから、もう少しまともな講義をしてほしいと考えています。

名古屋市立大学の学生さんの動画を見て、何かを成すには、周りの人の協力、というよりはコネを上手に使うことや、利害関係の一致する間柄になることが大切なんだと再認識しました。講義の趣旨とは乖離した感想ですが、これらなしでは朝ごはん屋プロジェクトは難航していたのではないかなと思いました。勿論、主体となって動いた学生さんは尊敬に値しますし、素晴らしい勇気を持った人だと思います。ところで、あのようなプロジェクトは果たして徳島県で成功を収めることができるのだろうかという疑問に思いました。名古屋であれば、いくら寂しい場所でも周囲から人をかき集めることは可能だと思いますが、徳島は全体的に人が少ないので、さらに難関だと感じます。大学在学中に、一度こういう問題に取り組んでみたいなと思っています。

先生の授業はとてつもなく説得力があり、今の時代どう生きていいのかがよく分かった。某授業よりよっぽど役に立つ話だった。私は街づくりをに興味はないが、将来は徳島で働くつもりなので、やはり徳島を盛り上げていかなくてはいけないと感じた。クラウドファンディングの存在も初めて知り、また今まで、社会で生きるためには積極的に、主体的に動かないといけないということは学んだが、具体的にどんなことをすればいいかは分からなかった。先生は具体的な例を見せてくれたので、街づくりや実践ということが以前より身近なものを感じる用意になった。また先生の授業を受けたい。

先日キャリアプラン入門科目にて、総合科学部を卒業した後のキャリアは何かについて講義を行った。その講義では、法学部は弁護士に、歯学部は歯科医に、医学部は医者、理工学部はエンジニアになるキャリアがあると話され、総合科学部は何にでもなれる、新しい事を発見するキャリアがあると話された。しかし残念ながら、法学部所属者が絶対に弁護士になるわけではないし、所属と未来が繋がることはない時代が来たと、今回の総合科学部入門講座で矢部講師はお話なさった。液状化する社会(リキッド・モダニティ)と呼ばれる、個人化した社会が今であり、「自分の意志」が何よりも重要視される時代であるとお話なさった。上述したように、総合科学部は逆に「自分のキャリアを探す」学部である。矢部講師がお話なさった現代社会の事実は、総合科学部という名の抽象的な学部名が出来上がった由縁である。「何の為に大学を卒業するのか」という課題に応えるためには、「自分の意志」で「行動」を起こすことが重要だと、何度も念を押しながら話していた。

名古屋市立大学の学生は実際に地域現場に出て、所謂まちづくり政策について考えていた。駅周辺に多いシャッター街等、閑散した地域をどのように活性化させるか、学生は地域住民との密着した対話のもと、「あさごはん屋」の需要を見出したのである。「現場に出て考える」意味は、キャリア創生に役立つ以上に地域住民との交流や、インターネットの有効活用を見出すことができるきっかけにあるのである。「分からないことがあればすぐに調べることができる時代」に今私たちが存在している為、授業でもフィールドワークでも、インターネットの有効活用も見出すべきだと矢部講師はお話しなされた。代わりに、インターネットが普及した今の時代には嘘と真実が交錯しているものだとお話しなされた。メディアが変われば新聞もニュースも、事実を隠した報道を私たちに提供する。沢山の情報源に当たって情報を吟味する意味は、私たちがキャリアを築く上でも重要なことであるということだ。昔を生きた親の、人生に関するアドバイスに批判を持ってしても、今を生きる私たちは現代社会事情をよく知り、よく考え、「自分の意志」で行動しなければならない。実践的な活動のためには、一歩踏み出すべきだと結論付けなされた。大学が提供している留学プランや懇親会、バイト求人やフィールドワーク研修も、実践的な活動を行うための「一歩」なのであろう。

今回の授業では今私たちが生きている時代は成功モデルが変わっている時代と知った。そのためこれまでの常識が通じないため自分で考えることが大切だ。そこで実践から学ぶことで自分の意思で行動できるようになる。そこで取り上げられたのは名古屋市立大学だ。今回の授業で取り上げられた名古屋大学の学生の自主活動は、過疎化が進んでいる地域の学生が見習ってやってみたらいいのではと思うことができた。そして、営業時間外のお店を借りて営業するヤドカリ方式や誰でも今すぐネットでワンコインから参加できる支援のクラウドファンディングなどの言葉を知ることができた。

つまり、私たちはネットなどを使いながら様々なことにチャレンジできる時代に生まれたのでこれからは他人事だと思わないでやろうと思うことができた。

今回の講義で、矢部先生がおっしゃった「先例を信じて、マネをしてはいけない」という話を聞いて、何となく「自分は総合科学部だから、将来どの仕事に就くのかある程度決まっている」と思い、今までの先輩方の就職先の中で考えていたことに気が付き、とても共感できた。

今回の講義であった、名古屋市立大学の「駅西朝ごはん」の話でコメを研ぐことも知らない大学生が、自分たちから行動を起こし、周りの人に助力を請いながら、だれもしてない

ような「朝ごはんを売る」ことを実現したことには、感動し、自分でも大学の勉強の中で行動することにとらわれず、この話のように「大学生として何ができるのか」と考え、行動を起こして、今までの小学校から高校までの学びの中にはあまりなかった「実践」を試してみたいと思った。

今回の講義担当者である矢部先生は、今は人口減少社会で、地方の問題の解決が最先端なので、それ以前の都市の問題の解決が最先端の人口増加社会で成果を出した成功モデルは通用しないことを主張された。そして私たち学生に対しては、人口増加から減少へ社会が変わったので、先例を信じず、その状況下でそのつど考えることや、これまでの常識に縛られず、自分で確かめることの大切さをお説きになった。その次に、私たちに、実践から学ぶために自分の意志で行動できているかと問いかけ、その例として「クラウドファンディングで朝ごはん」と題した名古屋市立大学の学生の自主活動を紹介された。

まず、この活動の概要は、まちづくりを学ぶ学生が数人集まり、自主活動として名古屋市の駅西で居酒屋を時間限定で借り、朝ごはん屋を運営するというものだった。この活動の目的は、駅東と比べて発展が後発的である駅西を活性化するというものだ。

次に、私たちはその活動を取り上げたニュース映像を2本見た。1本目は、てきぱきと仕事をこなす学生たちの姿が映っていた。例えば、商品の鯛茶漬の出汁を自分で調合する様子や、地元住民や夜行バスを降りたばかりの客をターゲットに駅西で朝ごはん屋を始めたという話が紹介された。さらに、駅西のこれからの発展の可能性を語り、先を見据えた様子を見せていた。この映像で、私は彼らの行動力や分析力に大変驚いた。

2本目のニュース映像では学生たちが店を開く準備をする様子や、店を始めたばかりの様子が映されていた。1本目とは打って変わって、米のとぎ方をネットで調べたり、鯛の切り方が分からなかったりと、頼りない様子が映されていた。先程の印象は一変し、普通の大学生と全く変わらないとさえ感じた。しかし、もう1つ1本目とは違うところがあった。それは、店を貸してくれた居酒屋の店主の話や、学生たちが料理人に鯛の切り方を教えてもらう様子や、鯛の仕入れ先の魚屋の話から、学生たちが決して特別な能力があるわけではなく、地元の人たちの手助けがあって彼らの活動が成り立っていることが分かったことだ。

この映像の後には、矢部先生の助力が紹介されていた。具体的には、会合の場の様子を見てその場で新しいプレゼンの資料を作ったり、懇親会を二次まで開いて、企画に協力してくれそうな人を見極めたり、ただ来ただけの人を巧みに遠ざけたりと、極めて堅実な仕事だった。

私はこの授業で、学生が社会を舞台に何かを実践することで、地元の人たちや矢部先生のような地域社会の研究者とつながりをつくり、協力してもらうことで、本当に社会に出

てから必要とされる行動力や問題解決力を鍛えることができると思った。

授業のテーマ?のようなものを聞いたときに、クラウドファンディングがなにかもわからなかったし、朝ご飯ってどういうことかなと思ったんですが、実際大学生が活動している映像を見て、すごい驚きました。私だったらどうかと考えながら見ていたんですが、町おこしになががいいとか、魚の仕入れまでのアイデアまでは浮かんだと考えても、やっぱり実際に行動には移せないなと思いました。

今回の授業で取り上げられた学生が朝ごはんを提供する事業を行うのはとても興味深かった。私は、地域活性や地方創生に興味があるので地域の人とかかわりを持ちながら、事業を進めていけるのはいい経験になるし、一次会、二次会などでたくさんの交流もできて自分の交流関係や視野が広がっていいと感じた。事業を進めた人は、行動力があり、自分も積極的に行動しなければならない。この事業は、東の方では高級なビルが建てられ活性している中、西の方は東のようにビルを建てるのではなく、下町を残していこうとする考えは、地元の人にも親しまれそうでいい考えであると思った。まず、早朝に開いている店が少ないという問題点をみつけてそこから発展してどのようなものにしていくのか考えていくのは楽しそうだ。地元の人だけでなく、夜行バスを利用してくる客もきていたそうなので県外の人も足を運んでくれたらその町にとってもいいことだと思う。

事業の資金集めもクラウドファンディングを使い、今の時代にクラウドファンディングは有効であると思った。情報も SNS などで拡散され、有名になり若者を引き付けやすくなっていた。これをみて、ネットにはクラウドファンディングや情報拡散といった使い方ができることを改めて気づいた。

大学生は、自分がやりたいと思ったことを実現することができるということを知った。今までは、授業などで自分の意見やアイデアを発表する機会があったが、それを本当に実現させようとは思っていなかったし、その術も持っていなかった。しかし、今回の授業で取り上げられていた「駅西あさごはん」のように、学生のやってみたいから始まったことを本当に実現させることができる。今回の授業を受けて、自分も「駅西あさごはん」のように、徳島を盛り上げるために何かしてみたいと思った。しかし、そのために必要な知識や人脈などを私はまだ持っていないので、これからの学生生活の中で得られるようにして

いきたい。

矢部先生の前半の話は、今まで受けていたキャリアプラン入門講座とは違っていた。大げさではなく、これからの時代は今までと違うのだなと感じた。自分の大学生活や将来についてもっと考えなければならないと思った。社会が変わり前例が通用しなくなるなかで、自分で確かめるために現場に出て考えることが大切になるのだと学んだ。そのために実践系の授業や留学制度があるので、できるときに経験しておくべきだと思った。

駅西朝ごはんのプロジェクトは大学生が考えて行動した例として知ることができてよかった。高校生にも大人にもできない事業だったと思う。だからといって徳島で何も考えずに同じことをしたところでなんも意味もないと思うし、やらされるのも違う。ただ、自分が本当にやりたいことは今のうちにやっておくべきだと思う。まずはいろいろなところに飛び込み、やりたいことを見つけることからスタートしたい。

授業のまとめ

まずその情報が正しいか正しくないかを見極める力が必要である、ということだ。インターネットの中には嘘の情報がたくさんある。また先生の話の中にも正しい知識ではあるが、それが古くなっている場合もある。現代の社会と昔の社会では置かれた状況が異なるため、昔は正しかったことも今は通用しない場合が往々にしてある。そのため、先例を鵜呑みにするのではなく、自分自身で確かめていく必要がある。

もう一つは、やろうと思えばできる、ということだ。頭で考えても行動しなければ意味がない。またやろうと思えばやれる環境は十分に整っている。そのため行動を起こすことは大事だし、思ったことはやるべきである。また行動を起こしていく場合には外のフィールドを持つことも大切である。外のフィールドは先生方が持っているので積極的自分の考えていることを話してみるとよい。

以上の2つのことを学んだ。

感想

自分はサークル活動の中で、山奥の地域の環境づくりのお手伝いをして満足していたがそれだけでは駄目なんだなと思った。確かに活動を行っていたのはよいことだったが、自分の活動の仕方は主体性に欠けていたと思う。ただ指示されたままに動いていた部分があった。そのため、これからは自分で考えて案を出していきたいと思った。そして行動に移したり、周りの仲間たちも巻き込みながら活動をより盛り上げていけたらな、と思った。

もう一つ心に残ったことは、スライドの途中に出てきた「徳島大学の勉強はぬるい」と

いうスライドだ。自分では、勉強はそれなりにしているなど満足していたし、周りよりもしているかなと勝手に思っていて自己満足していた。しかしそのスライドをみてどっきとした。自分や自分の周りはそうかもしれないが、自分の見えていないところではもっと熱意をもって勉強している人が必ずいる。同じ時間を生きているはずなのに自分は何となく生きていたような気がしてはっとさせられた。そのためこれからは、今以上に自分自身について知ろうと思ったし、考えていかなければならないと思った。そしてなにより、一瞬一瞬をもっと大事に、そして目的を持って生きていかなければならないな、と思った。

そして、今自分の周りの整った環境を当たり前だと思っていたが実際はとても恵まれている。そのためこのような状況を使い切らないのはとてももったいないことだと思ったので使っていけるよう、何か考えていこうと思った。そして大学生の特権をもっと使っていくべきだなと思った。

最後に頭の中で考えて満足して終わりにするのではなく、行動に移していかなければならないなと思った。

今回の講義では以上のような感想を持った。しかし感想で終わらせてしまったら今までのままなので、今後のサークル活動や日常生活に活かしていこうと思う。

今は法学部に進めば弁護士などというのは過去の話で、何を学んでも何になるかわからない液状化する社会である。人口が増えていた時代はこれをすれば儲かる、成功するという例などがあったが、人口が減少している今の社会では今までの先例は通用せず信じてはならない。過去と状況が大きく変わっている今、私たちは考え、自分で確かめ、自分の意志で行動していかなければならない。

今回は料理や経営など何の知識もない学生たちが自分たちの思い付きで店を立ち上げて成功している話を聞いて凄いと同時に自分も何か大学生の間に仲間を集めてやってみたいと思った。私は徳島出身なので徳島の今の生活が自分の常識になっているが、県外出身の友達から徳島には何がないか足りないかなどを話し合っ自分たちで新たな市場を見つけていきたいと思った。私は飲み会などか嫌いで今まで参加してこなかったが、飲み会などに参加していろいろな話を聞きいてみたい。

今まではずっと親戚や先輩方など、自分よりも先に経験してきた人たちの話を聞いて自分の未来について考えてきていたので、「社会は個人化しているため、どこかに所属しているからといって未来は決まらない、自分の未来は先例のようにはいかない」という今日の授業にハッとさせられた。

何かの問題や課題を発見したとき、提案を考えるだけでなく、実際に現場に出てみて、そこでとりあえず行動してみることの重要性がわかった。大学の学びだけでなく、外のフィールドを持つことで、自分実力を自覚し、力を伸ばすことができる。

言うだけなら簡単だけれども、実際に自分で動いてみることはなかなか難しいし、勇気が必要だ。しかし、何もしないよりも、まずはなにか行動してみるというのは大切だ。まずは自分が本気になって取り組める何かを探してみようと思う。

今回の矢部先生の講義を受けて、今回の講義の要点は三つあると考えた。

一つ目は、現在の社会は個人化していきっており、どこかに所属することと未来は繋がらないということである。私はこの講義を受けるまで、どこかに所属さえすれば将来は安泰だというような楽観的な考えを持っていたので、この講義を受けて考えを改めさせられた。

二つ目は、地元の人との繋がりを広げるということである。地元で何か活動したり企業するにあたって、地元の人々の協力は不可欠なので、このことは重要だと言える。

三つ目は、人口減が激しくなってくるこれからの社会では、今まで通りの考えは通用しないので、自分で物事を確かめ、考えたことを積極的に実践することが求められるということである。私は将来、地域社会に貢献できるような仕事をしたいと考えているので、この講義を受けて、現代社会に求められる個人としての在り方を学ぶことができ良かった。

以前の大学の授業では、レジュメなどが用意されていなかったため、大切だと思ったことは何でも、自分でメモを取らなければならなかった。しかし、今の大学の授業では、パワーポイントのスライドやレジュメが用意されているため、自分でメモを取るという機会が少なくなっている。したがって、インタビューを行ったときなどにメモを取ることができない人が増えている。この話を聞いて、日頃の授業で、何が大切なのかを書いたり、ポイントだと思うところをメモしたりする習慣を身につける必要があると思った。

また、私たちが生まれた 2000 年を境に、社会は、人口拡大社会から人口縮小社会へと変化した。私たちが生きる時代は、「これまでの常識が通用しない時代」である。法学部を卒業したから弁護士になれる、経済学部を卒業したからエコノミストになれる、そのような考え方は終わった。つまり、どこかに所属していることと未来は繋がらないのである。自分自身で、実際に現場に出て、確かめる必要がある。実際に現場に出て行動した例として、「駅西あさごはん」のビデオを観賞した。「地方こそ自分自身の力で面白くしなければならない場所だ。それができなければ、不満を抱えて、都会に憧れてしまうだけだ」という言葉に、自分の心を言い当てられたような気がした。確かに、今までの私は、そのように考

えていた。「田舎になんて、何もなし。やっぱり都会はいいよな。羨ましい…」と。このような考え方の人がいると、地方の発展は止まってしまうのだと気づき、地元「徳島」を活性化させるために今の自分に何ができるのかを考えてみたいと思った。

第八回の授業では、自分の意志で行動することが大切だと学んだ。1 回生のうちに、興味の持ったことには片っ端から挑戦して、自分が将来何になりたいか、何に向いているかを考えて、2 回生のコースを慎重に選びたいと思う。

今回の講義を聞いて、自分たちで行動しなければ、成功しないということがわかりました。今成功している人の世代とこれから社会で活躍するであろう私たち世代とはキャリアが違います。なので、今成功している人の世代の常識は私たちには通用しないので自分たちで動いていくしかないのです。常識を身に着けるためには、実際に現場に足を運び実践から学ぶことが大切です。しかし、実践をするといっても、人からやれと言われてする、受動的な行動ではなく、自分の意志で能動的に行動しなければなりません。この良い例が今回の授業で取り上げられた、名古屋市立大学の地域活性のための生徒の活動です。この活動は決してお金を稼ぎたいからという理由から始めたものではなく、大都市の名古屋の中での格差を少しでも、なくすことができるようにという善意の心から始めたものでした。そこで、目に着けた事業が朝ごはんを食べる店を作ることです。確かに高速バスで早朝に着く場合、徳島でも 24 時間営業の店は、ファーストフード店しか空いておらずその店を探すことにとても苦労します。しかし、店をしたい、と試してみてももちろん生徒の中には料理を経験したことのある人はいません。そこで、次に取った行動は地元の人と繋がることです。生徒だけという狭い括りで活動をするのではなく、地域の人達にも協力をしてもらうことにより、自分たち生徒がどういうことをして、地域活性をしようとしているかを理解してもらえます。例えば、朝ごはんの魚のさばき方を地元の料理人に教えてもらったり、大きな市場に行くのではなく地元の小さな市場で材料を買います。活動内容を理解してもらうことにより、店の良いところ・悪いところを住んでいる人たちからの視点で言ってもらえます。

今回の講義で私は「風の人と土の人とをつなぐ」という言葉を初めて耳にしました。朝ごはんの例でいうと、活動をした学生が風の人、地元住民が土の人となります。たしかに、固定概念のある土の人だけでは、決して朝ごはんの活動はやっていなかったでしょう。そこに、その土地のことをあまりしらない風の人が外から新しい風を送り込んでくれることにより、できなかったことができました。私は、これから徳島の風の人となれる様に頑張ります。

学生のうちに地域を活性化させるような活動をしていて、自分も何かやってみたいと思った。一つ目の動画では、何もかもうまくいっているように見えたが、二本目の動画を見るとお米のとき方を知らなかったり、味の指摘があったりと、様々な課題があったことに驚いた。矢部先生や地域の人などのサポートを受けて、学生でも行動力や意志があれば成し遂げられるのだと感じた。今日の講義を受けて、私も徳島の活性化につながるようなことをしていきたい。

今回の授業で大事だった点は3つある。まず1つ目は、現在は個人化する社会だという点である。現代社会では、経済学部だからエコノミスト、法学部だから法律家などのように、どこに所属しているから何になるというような固定化がされない。2つ目は、先例を信じすぎてはいけないという点である。現在の成功例などで挙げられていることは、人口が増加し若者が多かった時代に成功したことであり、人口が減少し高齢化しているにほんでは、ほぼ通用しない。つまり、これまでの常識は通用しづらくなっているのだから、自分でどれが正しいのか確認する必要がある。また、現代ではSNSの発達やメディアによる印象操作などにより本当の情報がどれなのかが分かりにくくなっているのだから、より一層自分で考えて確認することが大事である。3つ目は、自分から行動することである。今回取り上げられた駅西での朝ごはんの販売は、何もかもが初めての素人大学生が始めていた。最初は、お米を研ぐのでさえままならなかったのに、Googleで調べたり老舗料亭の人から教えてもらったりなどして成功させていた。物事を始めてみると周りの人からの支えもあり、なんだかんだうまくいくことが分かり、まずは自分の意志で何かを始めてみるのが大事だった。

今まででも何回か聞いたことがある、法学部だから将来弁護士、経済学部だから将来エコノミストになるとは絶対に言えないという台詞であるが、今日の矢部先生の毒舌を聞いてよりその言葉が自分の体にしみこまれた。また地域活性化プロジェクトの映像を見て、今の世の中で不可能なことはないんだな、と思わされた。自分も起業をしてみよう、と思わされるまではいきはしないが、自分から進んでこれからの大学生活で何か結果としてでも残る様な事をしてみたい、と思った。

授業の感想は矢部先生は声の速さもちょうどよく話の進め方もよかったのでちゃんと聞くことができた。ただ言葉にトゲが多いのでこちらとしては面白かったが、これからの矢部先生のことを考えるともう少し毒舌を減らした方がいいのでは、と思ってしまった。

名古屋市立大学の学生さんが学校を飛び出し、地域に貢献しようとして朝ごはんをつくる取り組みを講義の中で見た。自分たちが地域に貢献できることはないか、という考えから実際に行動に移すことが出来ており、その行動力にまず感心した。

講義室などで頭でどうするかを考えるのではなく、実際に現場に出ることによって初めて見えてくるようなものがあったり、店を借りて、その开店資金はクラウドファンディングで調達したりして、と口だけではなく、本当に本気で取り組んでいる姿を見ていると同じ大学生として、すごい大人な存在だと思った。

この一度きりの大学生活の中でどれだけ色々な経験を積むことが出来るかはその人自身の気持ちや意思次第だと改めて痛感した。

工学部だからエンジニア、法学部だから弁護士、のようにこの学部に入ったからこの職業に確実につけるという先例だけを鵜呑みのするのではなく、現在はパーソナリティによって就職に結び付けられるということを考えて、自分で考えて自分から行動を起こしていける人にならなければいけない。周りがこうだから自分も周りと同じようにする、周りがこう考えているから自分も同じ考えだ、という風に私自身も周りを基準に物事を考えて周りに流されてしまうことがある。自分の意思がない人間は社会に出たときに何のできないし、就職したとしても何らかの成功を取めたり成長したりすることができない。個性を出さなければ型にはまっただけのつまらない人間だといわれ、個性を出せば協調性がないといわれてなかなか認められない、ということを知ったことがある。個性をうまく出して、それと同時に、うまく型にはまることも大切である。また、メディアの美化された情報があふれている中でその情報だけに惑わされてはいけない。疑問に思ったことなどに対して自分で考えて自分で問題解決のために率先して行動していける人になれるように努めていきたい。

とてもわかりやすかったし面白く最後まで集中して聞くことができた。クラウドファンディングという仕組みは勝手にアメリカで主に使われているものだと思っていたが、日本の大学生でも内容が認められればまとまった資金が集まることに驚いた。また、経営していた朝ごはんの店も思っていたよりずっと本格的だった。人口が増えているうちは景気もよく街も発展するため大都市をモデルにしていれば良いが、今は不景気、人口減少のスパ

イラルになっていて衰退する一方のため、今までのやり方ではなく衰退した街、小さい街をモデルに改革していかなければいけないというのはとてもわかりやすく従来の方法ではダメだという理由を的確に説明していると思った。

金曜日の講義を聞いて、なんで総合科学入門講座やキャリアプラン入門などの必修科目があるのか理解できました。確かに経済学部や法学部のように将来何になるかが大体決まっているような学部には、このような講義は必要ないと思いました。また現代は人口拡大社会から人口減少社会に変化しているからこれまでの常識が通用しない、と聞いて少し驚きました。今までは両親の言うことを信じ切っていたので、これからはできるだけ自分で考えてできるだけ行動しようと思いました。大学生がお店を開くのはすごいなと思いました。大学生でもやろうと思えば何でもできる、という勇気をもらいました。だから私も同じ大学生として自分の意志で地域の人々の役に立つボランティアなどをしてみたいと思いました。

大学で授業を受けるだけでなく、実際に自分たちで現場に出て体験してみるということはとても良いことだと思いました。そこで得た経験はきっと社会に出てから自分の誇りになると思います。さらに、そこで出会った人々や、経験によって自分の将来のしやが広くなって、より多面的な思考力が得られそうだと思いました。

今回の講義は主に大学生が自主活動で地域活性化の活動をしていることの紹介だった。クラウドファンディングによって資金を集め、学生の方で事業を展開していく行動力はすごいと思ったが、先生の裏話を聞くと、本当は周りの人の力を借りて資金を集めたり、有名料理人から調理方法を教わったりしていることがわかった。テレビの編集次第で見ている人の認識はどうとでもなるため、真の情報を得るためにも講義でもあったようにメディアリテラシーは身につけなければならない。

今回の授業を聞いて改めて重要だと思ったことがいくつかあった。一つ目として、先例は信じないほうが良いということだ。なぜならば、先例を大人が子供に教えるということ

は昔の話を子供に聞かせることであり、その話はすでに通用しないかもしれないからである。これは昔の常識が通用しない、常識が古くなっているということである。つまり、これからは先例ばかりを信じるのではなく自分自身で考える必要がある。これは、かなり重要だと思ったことだ。

これからは、今回の授業で聞いたことを活かしていきたいと思う。

今回の授業で、「リキッド・モダニティ」という時代概念について興味を持った。かつての世の中の威嚇や危険は、合理的な解決方法によって一挙に解決されるものであった。しかし現代は予測不可能なリスクによって、流動的な社会の中で自分の身を守らなければならない。しかし将来の就職などに対する対処法がわからないという不安要素はあるものの、逆に選択肢が多くなり、自分の未来の可能性が広がる、とも言える。今までのように「~の学部に入ったから~になる」といった決まりがないように、「先例を信じてはならない」という意味がよく分かった。人口拡大社会と人口縮小社会、「先生」の生きる時代と今の自分たちの生きる未来は全く違っており、キャリアなどに関する絶対的な指導は不可能であるのだ。現代の問題、課題を自分で確かめる必要性和その見極める力をこれからの大学生活を通して身に付けていくべきだ。

まず、こういった現代の状況に対応するためには、実践的な行動力が必要となる。海外留学であったり、インターンであったり、大学が提供している制度を利用する。または、今回の授業で取り上げられていた名古屋市立大学の人たちがやっていたようなものもそう。近隣の地域問題を積極的に調査し、問題を見つけて改善策を出し、行動に移す。正直、1つ目の動画では、如何にも大学生の人たちだけの力でやったかのような、すごい学生たちだなと思ひ、自分の力では及ばない行為だと思ったが、2つ目の動画を見て少し安心した。やはり、学生の能力や技術には限界があり、社会に出て運営・活動するには、コンテンツやノウハウの不足がある。しかし、大学教授や周りの大人たちの協力もあれば、可能な活動はたくさんある、ということを知ることができた。名古屋市立大学の人たちの活動を見て、今後参考にすべきところはたくさんあった。インターネットの普及に伴い、SNSが広く使われている現代の環境を利用して、ヤドカリ方式といった活動の効率的な方法を調べたり、または活動の呼びかけ、お店を繫盛させるための宣伝に活用したりしていたことなどだ。こうした活動を見て、現代ならではのネットの活用性を改めて感じることもできたし、自分も何か新しいことに取り組むとき、積極的に利用していこうと思った。

名古屋市立大学の人たちの活動はビジネス的には少し厳しい面はあったが、地域活性化の課題には適応しているし、学生たち自身にとっても「社会に出て実践してみる」ということがとてもいい経験になっているだろう。そして私自身もそういった活動に魅力を感じた。今回の大学生の人たちとは、活動の方向性は変わってくると思うが、自分も自分の将

来の方向を見据えながら、「一步踏み込んでみる」といった勇気もつようにしたい。そういった意識を持つことで、液状化する社会を乗り越えていく力をつけることが今の自分の課題だ。

なぜ総合科学部全体で受ける諸授業でいまいちピンとくることがなかったのか、今日の授業で聞いた「個人化する今の時代の社会では、先例は通用しない」という話を聞いてわかった。重要なのは、順調だった親世代のありがたいお話を聞いて真似するよりも、今この時代のこの社会に飛び込んで刺激を受けることなのだ。総合科学部で何をしたいか、と言われると公務員試験の勉強としか答えられず、特に何も学問に興味湧いていない今、はっとさせられることが多い授業だった。

「駅西あさごはん」の取り組みについて知って、学生だからこそ無防備に無鉄砲に興味のあることにアプローチできるのだから、政策提言や発表だけでなく、実際にアクションを起こしてみるべきだということ学んだ。

昔と今では変化しているものがいくつかある。例えば、昔はこの大学に入学すれば、将来はこの職になるというのがある程度決まっていたが、社会が個人化する現在では、どこかに所属していることが直接未来にはつながらない。私たちも、総合科学部に入ったからと言って、みんなが同じものを目指したり、なったりするとは限らない。もう一つ大きな例を挙げるとするなら、人口拡大社会から人口減少社会に移り変わったことである。人口が上昇している時ならば需要も多く、成功モデルの真似をしておけば大丈夫であったが、現在はその成功モデルですら人口の減少に伴い、変化を続けている。そんな変わり続けている現在では先例を信じてはいけない。状況下で考え行動できる能力が必要となる。

今、キャリアプランという授業の中で成功したと話す人たちと私たちの状況は、上で述べたように違っているので、正直なところ何の意味もなく無駄な時間である。そして、前回のキャリアプランでは大学院への進学の話であったが、話をしていた先輩たちは、みんな留学をしていて現地で感銘を受けて大学院への進学を決めていた。つまり、徳島大学のぬるいから、学問の面白さを実感できていないということになる。しかし、留学に影響を受けて大学院に進学したにせよ、特定の教授の講義を受けたかったにせよ、最終的に決めるのは自分であり、その自分の意志で決め行動することがなによりも大切なことである。

名古屋市立大学の生徒の駅西で朝ごはん屋を営業する話ではクラウドファンディングというものに注目した。クラウドファンディングによって資金を調達していた。クラウドファンディングはWEB上で資金提供を呼び掛けられるので多くの人に伝わることにより、多

額の資金を調達することができる。そして、まったくの見ず知らずの人から資金を出してもらっているので、途中で投げ出すことができないという思考的拘束力もある。インターネットで簡単に資金提供を求められるので、「矢野経済研究所の調べから、2015年から2016年にかけて、1.7倍となっている」。©株式会社クラウドポート クラウドポート編集部 「クラウドファンディングとは|種類や歴史、メリット・デメリットまで」 2018.04.05 (最終閲覧日:2018年6月4日)

https://www.yano.co.jp/market_reports/searchMr.php?search_class=1&query=%E3%82%AF%E3%83%A9%E3%82%A6%E3%83%89%E3%83%95%E3%82%A1%E3%83%B3%E3%83%87%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%82%B0

インターネットが普及している現在で、学生でも手軽にでき、多くの人からの関心や資金を得られるクラウドファンディングの市場はこれからも拡大する。そして、市場がより拡大すれば、より多くの研究がなされ技術が進歩する。

6月1日の私の日記の一部とは、こちらのことです↓

『5月に入って、レポート、その他課題に時間いっぱいになって、自分が本当にやりたい事への投資から逃げていたわ!』

金曜の朝、矢部先生がくれた時間は、それまでの授業と比べてみると、改めて、私にとって貴重な時間だったなと思います。

自分が徳島大学内、徳島内で居座り続けると、無意識に狭い見方、考え方で生きているなという自分の置かれた現状を体感しました。(実際自分がほかの土地に出て行って体感することの方が、身に入るのだらうと思います。ただ、授業でそれを意識できることだけでも、時間に価値があると思います。)

「駅西あさごはん」の人々は、自分の「やりたい!!」ことの実現のために、人を集め、周囲の協力を呼びかけ、実際に現地に出向いて情報を集める、といった行動を起こしています。これを見て、私は自分が「やりたい!!」と思うことに、今もっとアクションを起こしたい!という思いが強まりました。5月最近までの感覚のでは、やりたいことに費やす時間が不定期でした。特に5月中旬からは、授業、学内の友達と関わること、じっくりレポートやその他のことをメインに時間を取っていたので、自分からすれば、緊急性は低くても、価値があると思う、「自分がやりたいこと」に向き合う時間がないままでした。少しでもそれらに時間を取っていく生活スタイルに変えることが人生大事だなと思いました。

矢部先生からも学ぶことが多くありました。

はっとしたことの1つが、「先例をモデルとするな、信じてはいけない」という言葉です。この言葉の裏には、「自分の意志をもって自分から行動する」という意味も含まれています。先日の水曜のキャリアの授業でも、「誰かを信じるな、疑うな。自分で確かめろ」という言

葉があったのでピンとききました。何を成功モデルとするかが key となる、自分で現場を確かめてみるしかない、ということも忘れません。

また、「何かに所属することと未来は繋がらない」という見方を得たことで、自分の将来やりたい事に対する見方が変わりました。自分の将来の可能性は自分次第だなど、すとんと腑に落ちた感覚です。そうはいつでも、将来どう自分があるかは気になるので、完全になにか吹っ切れたわけではありません。ただ、自分が「今」チャレンジしたいこと、楽しいと感じることは、挑戦してこそだと、それこそ自分の人生を生きることだなど思いました。だから、その時々生まれる自分のやりたい!!のワクワク感は大事にしようと思いました。それらを、単に秘めていただけだったのがここ最近の 5 月中旬の自分だった気がします。これを行動にだして、実際アクションを起こしたのが、原点にたった高原さんをはじめ、「駅西あさごはん」の人々でした。

自分は 1 人で過ごすことが苦ではないタイプの人間ですが、接する相手によっては、人からの直の作用、力は、何倍も自分のなかに大きな刺激になります。今回矢部先生をはじめ、紹介して下さった方々の言葉もよい揺さぶりがありました。

今書いた私の感想は、また明日になればまた少し変わっているかもしれません。

とにかく、これを書いている今のわたしの感想は以上のとおりです。

私は今回の講義を受けて 1 番大切だと思ったことは、自分たちの力で何かを始めるという行動力です。大学生は受動的ではなく能動的でなければならないとわかっていますが、自分から動くことは難しいです。1 人暮らしをして、勉強をし、バイトをするという当たり前前のことをするだけで毎日精一杯にある状況です。ほとんどの学生がこのような生活を送っていると安心し、このままでいいのだと思い過ごしていました。しかし今回の授業の映像で見た名古屋市立大学の学生さんは、ただ店を開き食事を出して経営しているのかと思っていたら、資金集め、場所の確保や食料の調達などの全てのことを自分たちでやりました。また、映像を見ていると味付けの仕方や包丁さばき、米のとぎ方など基本を知らない学生もいましたが、街の人の支えで形になっていっていました。数人の学生の街づくりをしたいという思いが、駅西を変え、街の人をも変えていると見ていて感じました。学生 1 人 1 人の力は小さいかもしれませんが、たくさんの人に協力してもらうことで大きな力となり街を変えていけるのだと思いました。また、私は映像を見たときに、駅西と駅東の風景の違いの大きさに衝撃を受けました。駅東は高層ビルやマンションがたくさん建っているにも関わらず、駅西にはそのような建物がなく昔ながらの建物が並んでいました。それを見たときに、少し距離が離れているだけなのにこのような格差があつていいのかと思いました。しかし、学生が街の人に協力してもらっているのを見て、人の温かさや昔ながらの建物があつて、それはそれでいいのだと思いました。無理に駅東のように高い建物ば

かりにする必要はないとも思いました。

矢部先生の授業は、最初に先人たちの成功例が現代を生きる人に通じない理由が人口減少し続けているからであること、そして名古屋市立大学の人々たちの例をとってメディアで取り上げ方が違うこと、そして自分で調べることの重要性を教えてくれた。きっと矢部先生は米のとき方すらもわからない学生たちでも町おこしプロジェクトに参加することができるよということを伝えたかったのだと思う。

シンポジウムの二次会でほんとに興味のあるやつが集まってくるのは納得した。自分の意思で動いたものが中途半端で投げ出すことなく最後までやりきるのだなと思った。

まず、大学生が自分たちで計画して実行して店を開いたという行動力に驚いた。ただ単に、地域活性化に貢献したいとか、なにか行動を起こしたいと思う気持ちはあっても、実際に動くことは難しいと思う。何事も行動力が大切だということを実感した。

私は、名古屋市立大学の学生が高層ビルが立ち並び栄えている駅東ではなく、寂れ、町の雰囲気もあまりよくない駅西を活動拠点においたことに、疑問を抱いた。私なら人が多い駅東で活動すると思うし、そのほうが町の雰囲気や状況からしても、なんとなく苦労も少ないだろうと思ったからだ。しかし、名古屋市立大学の学生は駅西を選んで、食材も駅西にある店で買っていた。すべて、駅西のものを使うことで、駅西にある店の発展に貢献したり、町の人が元気になるきっかけにもつながったと思う。

また、店をやドカリ方式という方法で、店を開くことができるということを知らなかった。資金が少ない状況で店を出すには最適な方法だと思った。しかし、ほかのお店を借りるということは、その店の人に自分たちが朝ごはんやを開業する経緯や意思を伝えて、理解を得なければならない。それは決して簡単なことではないと思うが、映像を見ても、学生たちは、真剣に取り組んでいる姿が見て取れた。その真剣さが周りの人の協力を得たのだと思った。

今回の授業で一番強く思ったことは、地域活性化のために自分が何かしたいと思うなら、計画からしっかり立てて、必ずやり遂げるという強い意志をもって行動を起こすことだ。自分たちだけでは成し遂げることが難しくても、町を変えたいという強い意志を周りの人に伝えることができれば、周りの人も協力してくれる。名古屋市立大学の学生の姿に影響を受け、自分にもあんなに大きな活動ができ、徳島の地域活性化につながる活動ができるかもしれないと思った。そのためには、思うだけはやめ、実際に行動することが必要だ。

どこかに所属していることとその所属と個人の未来は繋がらないという導入に、いきなり驚かされました。医学部は医者、法学部は法曹関係者という固定観念が頭に植えつけられていたからです。

先生はそれが間違いであることを人口の推移データを用いて論理的に、わかりやすく説明していただき大変ためになりました。

また、現在の先生や教授と呼ばれる私たちよりも昔を生きてきた人々の話は参考にはなっても全く事情が変わっている現代社会で生き抜くには鵜呑みにしてはいけないなと強く感じました。

今回の授業で、現代の社会は個人化が進んでおり、昔から考えられてきた、ある場所に附属することは未来の決定につながるというものが通用しなくなっていることを知った。先生などの経験者の話をもとに講義を受けたりするが、そのときは、当時の状況と今の自分たちの状況が異なっていることを考える必要があり、何においても、当時と今の社会状況は変わっていてこれまでの常識が通用しなくなるので、今の自分の置かれている立場をしっかりと考えて、過去の成功モデルを見なければならぬことが分かった。

また、実践から学ぶことの大切さを学んだ。外から見ているだけでは見えないものが、内側に自分が入り込むことで見えたり、新しく感じるものや分かたりするものがあるので、実践の重要さに気づいた。実践するときも、自分の意思で行うことに意味があり、人から強制されてしても意味がないことが分かった。クラウドファンディングは、他人の力を借りることによって途中で投げ出すことはできない状態をつくることができ、また、人とのつながりを感じるができたと思った。

名古屋市立大学の生徒の方々のプロジェクトを聞いて、行動力があってすごいと思った。あれしたいこれしたいと思うだけではなく、実際に行動することが大事だと改めて感じた。このプロジェクトは一人の力だけでは無理だし、学生が何人か集まっただけでも無理だけど、積極的に地域の人たちと関わって助けをもらったり、今の時代だからこそ出来るクラウドファンディングをしてお金を集めたりする事で実現することが出来るんだと知った。だから、地域の人と交流を深めることが大事だと感じた。また、自ら知らない人からお金をもらうことで、上手くいかなかったとしてもプロジェクトから逃げ出せない、本気でしようとする意志の強さが大事であると実感した。

人件費や利益を考えず、そしてこれがしたいと思う自分の意志があれば、自分もやりたいことが出来るということ学んだ。

今の時代は、法学部は弁護士、経済学部はエコノミストなど、所属によって未来が決まらない時代である。法学部や経済学部でさえもそうであるのに、ましてや総合科学部の人たちの未来は本当に人それぞれである。だからこそ、自分は何がしたくてそのためにどうするのかを具体的に考え、自分の意志を持って行動できるようにすることが必要である。自分より年上の人のお話をただ聞いてうんうんと頷くだけではなく、自分ならこうするのというように、批判的な思考を持つ事も必要であると感じた。

授業内で紹介された活動について、大学生の人たちが自主的に動いていることに驚いた。休日の自由な時間を割いて、しかも授業や単位とは関係なしに活動するのは、義務感や責任感だけではできないことだ。私ならと考えると、とてもやろうとは考えつけない。本当に街のことを思ってやったのだと思う。

自分の意思で行動することが大事だ、という話があった。私生活や遊びの話ならこれは簡単なことだが、「駅西朝ごはん」のような活動となると途端に難しいことのように思えてくる。自分のためでなく、町のためや社会のために行動しようと自分から思えることは希少だ。逆に言えば、そう思える人が地方創生に関わるべき人なのだ。

今回の授業から考えさせられることは多かった。社会のために自分から行動できる人にはなれなくても、別のことのためになら行動できる人になればよい。これはどちらかというと「続けられる仕事に就くこと」についての話になるが、私はそれでよいと思う。自分の意思で行動することが大事なら、そうしようと思えることに熱中すればよい。自分でやろうと思えることなら続けられる可能性は高いし、それが仕事にできるなら理想的だ。

「駅西朝ごはん」は社会のための行動だったが、自分のために行動しても結果的に社会のためになることはある。一部の特殊な例を除いて、仕事は人が利用するものやその機会を作り出す。ゆえに倫理に反したものでなければ、仕事をしている人は結果的に社会を支えている一人になる。

私などがそうだが、「社会のために自分の意思で行動する」のが難しい人は、まず「自分の意思で」行動しようと思えることから探せばよいのだと思う。そういう人にならなければいけない、と気負うことなく、自分のペースでできることを見つけないか。理想論かもしれないが、これが私の感想である。

今回の講義では、名古屋市立大学の学生が運営する「駅西あさごはん」の活動を中心に

話が進められた。まず、この活動は学生自らが主体となって取り組んでおり、全て自主活動である。名古屋駅西の地域活性化を目指して、この「駅西あさごはん」の運営に取り組む学生たちの行動力や積極性には驚かされた。私たちは総合科学部に所属しているが、総科全員が同じ道を歩むのではない。どこかに所属していても、未来は繋がらないのである。勇気を出して一歩踏み出せば、その先には新たな世界があり、そこで経験したことは必ずどこかで役に立つはずである。だから、何事にも怖がらずに、自分の意志に従って、積極的に取り組むことが大切だと分かった。

次に、「駅西あさごはん」では朝の時間帯に営業していないお店の店舗を借りて、自分たちがお店を開くという、「ヤドカリ」の手法を取り入れたり、開業資金を「クラウドファンディング」で集めたりしていた。現代ではインターネットやSNSなどが普及しているため、誰でも簡単に情報を得ることができ、また、自ら情報を発信することもできる。私たちが実際に何か活動をするときには、インターネットやSNSなどを利用して、取り組んでいくことも大切だと分かった。

ユーモアに富んでおり、聞きやすく、楽しい授業だった。

学生がなにか始めようとする際の実情がわかった。いかに人間関係が大事かがよくわかった。他に、どういう人が協力してくれそうかを二次会まで来るかどうかで判断する、といったことや人は見かけによらないということなど、実体験に基づいて愉快地話してくれた。とても有意義な時間だった。

今回の授業で私は大学で学ぶ上で人との関わりの大切さを感じた。題名にも取り上げられていた名古屋市立大学で行われていた朝ごはんを出す活動は学生の自主活動だったが彼らだけの力だけでは決して成しえなかったことだ。もちろん始まりは学生たちが大学で学んだことを地域の活性化に生かしたいという思いからだがそれを実現できたのはクラウドファンディングに協力した先生や投資者たち、タイの切り方を教えてくれた料理人、店を貸してくれた人など多くの周りの力があつたからだ。私はこれまで大学生はとて大きく見え大人だと思っていたが、授業での動画を見てまだまだ知識も影響力も小さなものだと感じた。

しかし周りに頼らなければならないのは何も学生だけではない。社会人になってからも必ず誰かと手を組むことになるしむしろその機会は増えるだろう。学生のうちに多くの人と出会い関係を築くことは将来決して無駄にはならない。今回見た活動のように事業を運営するという実践の中で、働く人や地域に暮らす人と交流し意見を交換することは学内で

学ぶだけでは得られない多くの物に触れることができる機会だ。

私たちがこれから学んでいく中で自分の意志を持って取り組むことが求められる。AIの進歩や人口減少など社会が大きく動いている今、先例をたどるのでは駄目だ。現在社会で求められることに対して自分が何ができるか、どんなことを学ぶ必要があるかを考えなければならない。しかしそのために必要な情報にも動画で見たニュースのように作為的に編集された間違いもある。それを見分ける目も今後養う必要がある。そして自分の意志を通すには他人の力が必要で、他人を巻き込むには相手の意志を知り共有することが重要だ。マチにダイブすることは実際に人と会い、話し、自分を表現することで意志を洗練されたものにしその後の学習でより明確な目標を持った活動ができるようにすると思った。

今回の授業のポイントは、「これまでの常識が通用しない時代になっている。自分で考え、実践しなければならない」ということである。各大学は実践系の授業を増やしたが、授業だから実践している、というのでは意味がない。自分の意志で、地域で活動している、ということが要である。

この授業を聞いて、キャリア教育で成功した人たちの社会と私たちの社会とは違うということを考えなければならないということに気づいた。これまでの人口拡大社会では大都市問題が、これからの人口縮小社会では地方の問題が最先端で扱われる。その間の過渡期にいる私たちは、どちらか一方に目を向ければ良いのではないため、先例を信じてはいけないとのことだった。授業で先生が話す通りにしても、現在の社会でうまくいくとは限らないし、自分の意志でないため操り人形ようになってしまう。そうならないために、自分の活動が自分の意志でできているのか、振り返りながら活動していきたい。

また、学生の自主活動のビデオである、クラウドファンディングで朝ご飯屋を運営しているものを見た。初めて見たビデオからは、全て自分たちで考えて実行し、何事にもそつなく対応できる学生たちだと感じた。しかし次のビデオで、運営を始める前の準備段階の映像を見ると、運営も料理も初めてという状態から始めたということがわかった。しかし、地域の人との交流を広げ、多くの人に協力してもらいながらも、地域活性化のために働く姿を見て、凄いと思った。授業で「自分がアクターになるころまで考えることが、学ぶということ」と言っていたのを聞き、まさにビデオで見た学生たちのことだと感じた。これを聞いて、私が今までいかに受け身で学習してきたかを、改めて思い知った。今後は、自分ならどう行動するか、ということを考えて学んでいきたい。

今回の講義では、近年若者の話を聞いた中で課題を発見する能力が失われつつあるとい

うことを知った。また、古い考え方や先例は役に立たなくなりつつあるということも学んだ。例として、入る学部によって将来の仕事が決定するという考え方が挙がった。かつての学生はそのような傾向であったが、現在の学生はそうではない。法学部に在籍しているからといって、全員が弁護士になるというわけではない。社会に出た後に違う道に進む学生は多くいる。

また、海外の学生は自分の意志で行動し、自分の目標をきちんと持っている人が多いということも聞いた。徳島大学の先輩で留学経験のある人が、海外の学生は、日本の学生に比べてとても一生懸命勉強していると言っていた。図書館に籠って勉強する学生も少なくないそうだ。私も含めた学生は驚いたと思う。

これらのことを知って、私は、これからの学生生活は、目標をもって、自主的に取り組んでいきたいと考える。将来だけでなく、今日の前にあることを考える必要がある。自分にできることをすることと、新しいことにチャレンジする心が大切であるということを感じておきたい。

様々な人からの協力を得て朝ごはん屋の活動している様子を見て、自分も何か新しいことや経験値になることができるのではないかと思った。しかし、私が見習わなければならないのは、実行に移すことだと考えた。いつかやろうと決意することは簡単なので決意だけ固めて満足してしまうことも多い。本当に実践することができるかどうかは差をつけるのだと強く感じた。

日本は長期的に人口が減少する時代になり、誰も経験したことのない時代へと今後進んでいく。バウマンの「液状化する社会」という言葉を用いて、どこかに所属していることと未来はつながらない。先生方の時代と私たちの時代は異なっていて、先例を信じてはいけないと学習した。そして、人口減少社会の中、地方自治体の成功例が様々に取り上げられているが、地域といっても人口が多い地域と少ない地域があり、その成功例を鵜呑みにしてはいけなかった。先例のない時代に突入し、自分たちで確かめる必要があることが分かった。

授業では名古屋市立大学生の自主活動の動画を見て、朝ごはんを提供するお店を開業するためにクラウドファンディングをしたり、お店は別のお店をヤドカリして営業したりする姿があった。しかし、動画の後で学生たちは飲食に経験が無く、実際のお店の人に教えてもらっていたり、開業前の試食会で地元の人たちに試食してもらいダメだしをもらっていたりしていた。こうした学生の行動は、その地域の活性化のために地元の人たちから歓

迎られていることが分かった。もっと言えば、街を活性化したいと思う人たちがいるからこそ協力されているということである。学生に求められていることは、大学内での講義だけでなく実際の街へ一歩踏み出すことが大切なことだと学習した。キーワードは「まちにダイブする」ということで地域に関する講演に出席するだけでなく、飲み会まで参加して講演の先生やその飲み会に集まった人たちでしっかり話すことが重要だということが分かった。

本当に学ぶということは、自分が実際に行うということ。机上の空論ではいけない。地域はその地域一つ一つに特徴があり、条件が異なってしまう。地域を創造するには自分の体で体験しなければ、実際の地域で何が求められているのか、本当の事実が分からず、自分の考えと地域との間にズレが生じてしまう。大人になってしまえば、いざやろう思っても時間がなくて出来ないことがある。自分が実際に街へ出て観察したり、働いたりすることで授業で見た名古屋市立大学生のようにいろいろと出来ることがある。

矢部先生の今日の授業は、「話を聞きながら、どこが大事なポイントで、そこにどのような課題があり、自らどう考えるか。そして考えた後その課題に対してどうアプローチして解決へもっていくのかを、現場にでて実践を通して考えることも必要だ」という内容だった。

大学などの所属と自分の未来が必ずしもイコールではない時代を私たちは生きている。先人の生き方をまねするだけで、その人のようなことができるようにはならない。先例を信じてはいけない。その人が成功した時代と、今の私たちが生きている時代は違うのだから、そこに発生してる需要も変わっている。成功例をただ真似するのではなく、自分がやりたいことに対して、何を成功例とするのかを現場にでて考えることが大切になる。自らの意思で行動することが必要であり、それは大学の座学だけは決して培われることのない学びへと発展する。

自らの意思で考え、行動する力は新しいものを創り出す。一步、現場に出ればそのやりたいことを応援してくれるひとなど、多くの人とつながることができ、同じようなことをしたいと考えている人たちを集めることもできる。「やりたい」と思ったら、方法次第でそれが今は実現することが可能な現代において、自らが見出した課題を解決するための方法もさまざまであり、そこに正解はないし、成功するかはやってみなければわからない。

座学による、与えられる授業だけでなく、自ら動き、考えることによる実践的な学びから多くの経験を積むことができ、それが人生などにおいて大きな糧となる。また、問題を解決するために必要なことなど、実践的な学びからほかの学びへのきっかけともなっていく。

今の時代はどこに行っても何になるか決まっていない、所属と未来がつながっていない時代なのだということがわかりました。また、努力と社会の構造が関係ない人口拡大社会から人口縮小社会になっており、自分で動かなければいけないともわかりました。地域活性のために何ができるか分析し行動に移した動画の人は実際に動いていてすごいと思いました。何もわからなくても、一歩踏み込んで周囲を頼り協力したり便利なインターネットをうまく使うなどして自分で行動できると思いました。私も自分の意志で積極的に行動できる人間になりたいと思いました。

今回の講義では、名古屋市立大学の学生が名古屋駅西にて 500 円で朝ごはんを提供する活動についての紹介があった。学生の中に料理の専門的な知識がある者がいたわけではない。自分たちでネットの力を借りたり、プロの料理人に教えてもらったりしながら一から準備していくものであった。ネットの力を借りることは良くないように思われがちである。もちろんネット上の情報には間違いがたくさんある。しかし、これからはその中で何が正しくて何が間違っているのかを自分自身で判断する力が必要とされる。現代社会では個人化が進み、どこかに所属しているということが必ずしも未来につながるというわけではない。これは総合科学部のキャリアプランにも当てはまることで、総合科学部を卒業したからといって確実な未来が約束されているというわけではない。

また、社会は人口拡大社会から人口減少社会へと移行し、これまでの常識が通用しない時代となっている。人口が増えていた時代のキャリアプランと今の人口が減少している時代のキャリアプランは異なるので安易に先例を信じてはならない。実践することから学び、自分の目で確かめる必要がある。誰かにやらされるのではなく、自分の意志で行動することが大切である。

ある学部に行ったら、ある職業に就けるという自動的に将来につながる公式は、人口減少の時代には無い。今の時代は、先例を信じず、自分の意志で行動することが大切であるということを学んだ。

「駅西朝ごはん」の活動内容から、実行力と人脈の大切さを学んだ。まず、実行力は地域活性化に貢献したいと思っても、もし自分自身がやるとしたら、地域活動に積極的に参加する程度のことしかできないが、自らの手でお店を出して地域活性化の活動を発案する、実際にやってみる、ということをしていて、素晴らしいなと思った。次に、人脈は

同じ考えを持つ人をうまく集めることが重要で、人とのつながりがあったおかげで、料理人にコツを教えてもらえたり、ヤドカリ方式でお店を借りることができたりしたというのを見て、気の合う友達作りだけではなく、地域の人々や先生、社会人の人とも関係を持つことが大切であると知った。

今回の講義で一番印象に残っているのは講義で出席をとることは意味がないと書いていたことだ。昔、ある予備校講師が生徒が寝てしまうのは寝てしまうような退屈な授業をする方が悪いといっていたのを思い出した。同様に本当にその講義が面白く生徒の意欲を掻き立てるような内容ならば出欠を確認することなど必要ないのだと感じた。また、高校のときのように授業に出ているか出ていないかなどでなく、もっと大学生としての学びを追求していこうと決めた。

総合科学部に入ったから、絶対にこれになるという考えは間違っていると思いました。自動的に決まるものでもないと感じました。現在は、個人化している社会なので、今までのお手本通りにしてもみんなが同じようにはならないとわかりました。自分で考えていき、行動移すことが重要だと思います。それと、先生や親のことを鵜呑みにするのは良くないと思いました。現在は、先生や親の生きていた時とは大きく変わっているので、間違っていることも多いと思います。2000年までは人口も増加していたが、それ以降は減少しており、物も売れなくなっているのです。今までの成功モデルをまねするだけではだめだとわかりました。今までは、大都市の問題だけを考えていればよかったが、現在は通用しないと思いました。これからは、自分の意思で行動していこうと思います。考えるだけで終わらず、実践する行動力を身につけたいと思いました。実際に、現場に行き考えることの大切さがありました。初めからできないと諦めてしまわず、チャレンジしていくように頑張ろうと思えました。

大学は自由なところだと思っていたが、一時的にだが店も開けることに驚いた。思いついたとしても、実際に実行するとなると一筋縄でいかないことが動画からも想像できる。純粹にすごいと思った。米のとぎ方も知らないのにお店を開こうとする実行力にも驚いた。この取り組みを初めて知って行ってみたい思ったが、今はやっていないということで残念に思う。鯛茶漬がとても美味しそう。私は徳島大学に入る前に、どうせ徳島にいたのだらこの地では出来ないこと、この地だからこそできることをしたいと思っていた。入学して授業がはじまり、サークル活動もするようになってからはほとんど忘れていたが、今回の授業で思い出した。何をするかと考えた時に、今回は朝ごはんを地域活性化という

ことだったが、同じことをするのであれば更にインパクトがあるものをする必要がある。徳島にそこまでのものはないから、他のものといえば藍染が浮かんだ。今までにも藍染で様々な取り組みがあったが、いまいちであるという印象があるため、何か出来ることはないか考えてみたいと思った。ただ何をするにしても周りの人の協力が必須だと思うので、人脈は広げておいた方がいいと思った。

本日の講義では2つのことが印象に残っている。

一つ目は先例を信じてはいけけないということである。私の時代ではこうだったといった過去の成功例をいくら私たちに話しても、過去と現在は違うものであり、これまでの常識が通用しないのである。つまり、いま私たちがすべきことは自分で考えて行動し、見極めていくことが重要になってくるのだと感じた。

二つ目は人をつなぐお茶漬けの話である。

これは、名古屋の大学生自らが設立した店舗である。彼らは、タイのさばき方をインターネットではなく、プロの方から教えてもらい店に出しても通用するさばき方を自ら学びに行ったり、試食会などを開きお客さんの意見を取り入れて改善していくといった行動により、すぐに完売してしまうほどの人気を得たと同時にニュースにも取り上げられたのだ。このような成功は彼ら自身の努力もあると思うが、それを支えてくれた魚市場の方だったり、市民のかたの支援もあったからだ。つまり、一人で試行錯誤するのではなく、あらゆる人の力を借りることによってはじめて成功するものであると感じた。私たちにこれから必要なものというのはインターネットではなく、人との交流から得られる情報が私たちを成功へと導いてくれるのである。

今回の授業では、実践的に学ぶ事の大切さを学んだ。私は、今まで(高校まで)の学びを、座学だけで終わらせることが多かった。しかし、大学では、座学だけ授業だけでは足りない。高校と違い、自ら学ぶ姿勢を身につけなければならない。今回の授業で、同じ年代の人達が自分たちで計画をたて、クラウドファンディングで資金を集め、駅西を活性化させているのを見た。もちろん周りの支えがあつての事であるが、私は、まずそれをやろうと思った事と行動に移した事が凄いと感じた。自分ならば初挑戦の事にそこまで実行できるだろうか。今はまだ実力も知識も度胸もない私だが、大学生活を送っていくうえで、今回の授業でみた人達のような、人のため地域のために行動できる人になりたいと思う。

今回の授業を通して、大学生活では自分から動かないと意味がないという言葉を変えて実感した。単位や成績とか関係なく朝ご飯を提供し町おこしを行っている学生さん達をみて自分も自ら積極的に動いていきたいと思った。また、1回目のニュースと2回目のニュースを見て普段からメディアを鵜呑みにしてはいけないのだと知った。普段から何が正しいのかということ意識しながら情報を取り入れるべきなのだ。

自分にはなにができるかこの授業を通して考えてみた。心理学を学ぶとしてまだ学生の時点では専門的な知識は浅いので高度なことは出来ない。不登校の学生とただ遊んで気分転換してもらうことなどなら出来ると思った。そういった小さなことから悲しんでいる人の助けになりたいと思った。

人口減少していくこれからの世の中では昔の成功法では通用しない。これからの世の中をどう生きていくべきなのかをみんなで考えていくべきなのだ。

私は今回の授業で、現在は過去と違って個人化する社会になっておりどこかに所属していることと、未来がつながらないという話を聞き、総合科学部の就職先が固定されていないことは別に悪くないことだと感じ、むしろ様々な就職先を考えるという点ではよい学部ではないかと考えました。

また、主体性というお話で名古屋市立大の生徒が地域活性化のために朝ごはんを作り、提供するという動画を見てすごいなと思いました。なのでやりたいことができたらずぐ行動を起こせるようにしたいです。

一人ひとりのパーソナリティは違うもの。昔は、この部に入ったらこうなる、あの集団に入ったらあの職業になる、という考えが一般的だった。しかし、今は違う。自動的ではないし、進む道も自分次第である。特に、名古屋市立大学の生徒の方の朝ごはん屋さんの番組を見て、町を活気づけようという気さえあれば、自分次第でなんでも実行できるものだということが分かった。私も地域活性の分野には興味があるので、この番組に出ていた大学生の方々の朝ごはん屋さんのプログラムにはとても興味を持った。

自分の意思で行動していくことが何より大事だということを今回の授業で改めて確認した。

私は今回の授業で、どこに所属しているかは未来に繋がらず、社会は個人を評価するようになってきていることを教わった。総合科学部でも、個人をみるため、ベネッセのアンケートを実施している。また、学校の先生が教えてくれているものの中には、古く、時代が変わった今とは物事の背景が異なり、役立たないものもある。よって、「先例」は信じず、自分の目で物事を判断することが重要であるということも学んだ。また、受動的ではなく、能動的に行動をすることも重要である。

これらの授業で学んだことから、大学でただひたすら先生の話聞くだけではいけないことがわかる。では大学の授業など意味がないのだろうか。そうではない。大学で教わる情報は、知識として自分の中に取り込むべきである。また、その知識を得たうえで実際に現場に出て、大学の授業で学んだこととの相違点や授業を活かせるところを探すべきである。また、現場に出るところまで、大学がサポートすべきである。

私は矢部先生の授業を聞いて、大学生の間に何か大きなことに一度は絶対チャレンジしようと思いました。大学生は時間に自由があるため、その分時間を無駄にしてしまうことも多いと思います。なんとなく勉強して、なんとなくサークルに入って、なんとなくバイトをするだけの日々はものすごくもったいないです。せつかく時間があるのだから有効に使いたいと思いました。また、何かにチャレンジしようと思う気持ちがあれば、助けてくれる人はたくさんいるのだと学びました。友達や周りの大人とチームを組む、ということが大切なのだと思います。けれども、「何か」にチャレンジする機会を待っているだけではダメだと思います。「何を」したいかを具体的に決め、自分から積極的に取り組んでいかなければならないと感じました。矢部先生の授業、とても面白くて引き込まれるものがありました。

自分と近い歳のひとの取り組みを見て、一言でいうと鈍器で頭を殴られた感じがした。刺激的で衝撃だった。自分は毎日なにをしているのだろうか、とさえ思った。勉強していく中で、自分たちで考えて、行動を起こせていてすごいと思った。もちろんすべてが順調に進んだわけではないだろうけど、やってみよう!!という気持ちは大切な原動力であると感じた。大学に入学してから、ひしひしと感じていることではあるが、自分の行動でいろいろなことが決まる場所だと思う。今回の朝ごはんでも、学生には店を構える資金がない、といって諦めてしまえばそこで終わりだったと思う。また人脈も大切だと思った。声を上げて人数が集まらなければそもそも物事が進まないし、自分の苦手な分野や、持っていない知識を補い合いながら進めることで、よりいいかたちでのアプローチが可能になるからである。ここからは少しずる賢いともいえるであろうが、やはり”学生”という肩書は多少なりとも有利に働くと思った。学生、と言われるとなんとなく手伝ってあげたり、応援したくなる心理は私でもわかる。そこを武器にして突っ込んでくことで開ける道もあるの

かもしれないと思った。

出欠確認をとったりすることが、意味がない、面白くない授業をすることがない、という矢部先生の意見を聞いて驚いた。私もそう思っていたが、高校まででその考えを持っている先生がいることが単純に嬉しかった。私は高校まででその考え方を先生に伝えると、否定され続けていたので自分の考え方が間違っていると思っていた。矢部先生のような先生の話聞いて大学の良さを感じた。

大学のよさというのは大学に入ってあまり感じなかったが、町づくりの話など、主体性を持って行動できることが良さだとおもった。また学生というだけで応援してくれる人もいるので、その学生というものを良い意味で使っていきたい。

今回の授業は、今までの総合科学入門講座の中で最も自分の興味を引くものだった。

主な大学の授業は座学で講義をひたすら聞き、メモを取るという形態だが、それは高校と変わらない。大学の授業は今回の授業で扱ったような、名古屋市立大学の学校という枠組みを超えた取り組みのようであるべきだ。

社会で実際に働く人達と交流し、グループで討論して問題解決をしたり、新しいことを打ち立て社会に出て体験してみるという経験は大学でしかできないことだ。教授が知識を享受するのはもちろん重要だが、自分の頭で考え問題を解決していく力が現在必要とされている。だからそういった今までにはなかった「大学でしかできない」授業を多く取り入れるべきだ。

そういった授業を通じて、行動力や積極性、コミュニケーション能力が身につく、将来に役に立っていくと考える。

「総合科学部って、あなたは何を目指しているのですか？」これは私が、大学に入ってからよく聞かれるようになった質問だ。もし私が、教育学部や医学部などに所属していたなら聞かれもしなかった質問だろう。世の中の的にはまだまだ「進学先=将来の進路」という公式が浸透している。だが、その考え方はとうの昔にステレオタイプとなっている。理由は、社会が上り坂から下り坂に変化したからだ。人口減少社会では、これまでの「増やせば増やすほどいい」社会のやり方では通用しない。小学校の頃から、「私はこのようにして成功した」といった類の講演会を、学校で幾度となく聞いてきた。しかし、それらがどことな

く「自慢したい大人の会」に見えてしまっていたのは、きっとそのような社会変容に世間が気付き始めていたからだろう。これからは、先例を頼みにしない「個人化する社会」だ。

名古屋市立大学の学生たちがクラウドファンディングで飲食店を経営する。この話を聞いたとき、「意識高い系だ」と思った学生は私だけでは無いはずだ。私は世間一般に言う「意識高い系」の大学生ではない。別にそのようなタイプが嫌いなのでも、揶揄するわけでも無い。ただ、自分には縁のない活動だな、と最初は思ってしまった。しかし、活動の様子を聞いてみる限り、彼らも私たちと同じ大学生なのだと思った。単に、やろうと思ってそれを実行に移したかどうかの違いだ。私を含め大半の学生は、やらない理由が大きく分けて二つあるように思う。ひとつは、ハードルが高いと思っていること。もうひとつは、行動する度胸がないことだ。一步間違えたら空回りした痛い奴になるかもしれない。難しい上にやり方なんてわからない。しかし、今回の授業での紹介を見る限り、彼らは様々な人に助けられていた。そして、痛い奴というより楽しそうな人たちだった。「自分の意志で」行動する彼らは輝いて見えた。

そうした、実践から学ぶことは成功の時代背景が変わりつつある現代において不可欠なものになっている。自分の進路をどうするかは、どうすればよいかを自分で考えて実行することが大切だと思った。大学生という時間のある時に、何かひとつ「オリジナルの」経験しておくことは必ず何かの役に立つだろう。

今回の講義では、現代の社会と総合科学部についてと自分で実際に行動することについて例を交えて学んだ。

私自身、総合科学部出て何ができるのかと言われてぴんと来るものはなかったのだが、法学部出たから弁護士などという、所属しているところと未来が繋がるような時代ではなく、所属しているところと未来が繋がらない個人化する社会に今なっていると聞き、腑に落ちた。

この社会では先例を信じていけないということなので、自分で道を作るしかないなと思った。

自分で実際に行動することについて、名古屋市立大学のクラウドファンディングで朝ごはんについての動画などを見た。すごいと思ったのが、全てが生徒の主活動であるということだ。名古屋駅西の状況から、「学生にも何かできるんじゃないか。チャンスがあるんじゃないか。」と行動に移す姿にはすごい一言だった。

ヤドカリ方式で借りた店舗で提供していた地元の鯛を使用した鯛茶漬はとても美味しそうだった。

お客さんもととても喜んでるように見えたが、裏では鯛の切り方から、鯛の購入、店舗を貸してくれるように交渉するなど、全て自分たちだけでやっているため、とても忙しそ

うだった。

お客さんが来てくれるように高速バスを降りたところでのビラ配りなど、集客もしっかりしていた。

学年は違うが、自分と同じ大学生が自分たちでできることを見つけて実践に移していくという姿は今の自分にはない、新鮮なものだった。

授業を聞いてまず感じたことは、県外から来たからこそ斬新な視線から物事を考え、チャレンジできたのかもしれないということだ。私は徳島県出身で、廃れたシャッター街を見ても「まあこんなもんだろう」と考えてしまう。知らない土地で感じた違和感から外のフィールドを持ち自分で事業を起こすチャレンジ精神を見習いたい。ずっと住んでいる土地だが、新しい視点で問題を見つけられるよう常に意識して生活していきたい。

今回の総合科学入門の授業を通して、自分の意思を持つことで大学生活そして今後の人生どうにでも変えることが出来ると分かりました。名古屋市立大学の学生さんたちは自分の強い意志をもって、自分たちだけでなく周りの人たちも上手く巻き込んで地域の活性化のために努力をされていました。なんの知識もなく不安の方が確実に大きい中でもしっかり自分たちのやるべきことが明確になっていたのも、最後までやりきることが出来たのだと思うし、なにより自分たちの逃げ場をなくし、自分たちを追い込んでまで達成してやろうという強い気持ちに感銘を受けました。結局ほんの小さな勇気とやる気で何か自分がやってみたいと思うことを行動に起こせることができると分かりましたし、そういうことを積み重ねていくことで、また違った視点から自分を見つめ直しやりたい事が見つかるのだと分かりました。徳島大学に入学して二ヶ月が過ぎましたが、自分はまだまだやらされている教育を受けていると思います。完全に受動的でこのままだと何も変わらずあつという間に四年間が過ぎてしまうのではないかと思います。名古屋市立大学の学生さんたちのように地域のためにこんなことがしたいなどまだまだ考えつかず行動に移すのは難しいですが、自分の意志をしっかり持って能動的に大学生活を送れるようにしたいと強く思いました。今回の講義では実践から学ぶことの重要性を知った。個人化する今の中はこれまでの常識が通用しないということから、自分の目で確かめ現場にでてフィールドワークをすることが大切だということも学んだ。その例として、名古屋市立大学の学生が名古屋駅の西側で朝ごはんの専門店をやるという活動の話が出た。私が特に驚いたのは、この活動が授業とは全く関係のない活動だということである。宿借りで場所を安く借りたり、自分たちで鯛の仕入れをしたりするなど自らの意思で行動していた。また大学とは別の外のフィールドを持って活動することで、周りの大人が応援してくれて、地域活性化に繋がっていた。よく「地域活性化するためにはどうしたら良いか」という議題が出るが、単に解決策を提起するだけでなく、自分たちで実際に行動することが大切だと学んだ。

適当なところで段落を区切りましょう。

今回の授業では、「クラウドファンディングで朝ごはん」についてと、本題に入る前にキャリアプランや総合科学入門講座における先生の考えを聞いた。私はどちらの授業もただただ聞いて、授業で習ったことを受け取って終わりということがほとんどである。矢部先生のようにキャリアプランの授業を「うざい」「とぼけている」とも思ったことがなく、個別に対応するためにベネッセのアンケートを行ったにもかかわらず、総合科学部だからこういう仕事をすると言っているのはいつの時代の話なのかとも思ったことがなかった。ただ、人口減少が進み、年代でキャリアも違い、今までの常識が通用しないというのには共感を覚えた。現在ある仕事が消えたり、逆に現在ないような仕事が新しくできたり、それぞれの時代で変化していることが多いなかで先生の時代とまったく同じようになることはありえないからだ。

また、地域の活性化のために大学生が朝ごはんを提供していたという話にはとても興味を持った。名古屋市立大学の学生が、朝の早い時間帯に開いている店がファミリーレストランやファストフード店ぐらいしかないところに目をつけて、駅西の雰囲気を活かしながらヤドカリ式で朝ごはんを提供する行動力に驚いた。私は学生が町のために貢献するのはボランティア活動のような金のかからないようなものしかできないだろうと思っていたが、大学関係なしに自分たちでお金を集めて地域の活性化につながることをできるということを知ることができた。ただ、大人の力も借りないとなかなか難しく、地域の人々とのつながりも大事であるということも学んだ。私の地元は田舎で何もなくていいところだが、何か特徴を活かせるようなことを思いついたときに、少しでもいいから地域の役に立つようなことやってみたいという気になった。

今回の授業は総科入門の中で1番おもしろく、興味を惹かれた授業でした。「個人化する社会」や「先例を信じてはいけない」など今まで思ってもいなかった考えかたを新たに知ることができました。たしかに今、私はこの徳島大学の総合科学部に所属していますが、そこでこれから学んでいくことが将来につながるとは限りません。3.4回生になって、あれ?なんか未来の夢とつながってない?と焦ってしまうよりも、今の時点でそれを知っておくことができよかったです。また親や先生など私たちよりも先に生まれ、長く生きている人の方の考え方のほうが偉い、正しいと無意識に思って納得して生きている自分がいました。親が教員であることもあり、公務員が安定した生活を送れるからなりなさい。や自分のしたい事を職業にするのは難しいし食べていけないからやめなさい。など、言葉は悪いかも

しれないけれど少し堅苦しい昭和の考え方を小さい頃から教えられてきました。イヤになる事や反抗することはあっても、親や先生が言うことはやはり経験数も違うから絶対的の正しさがあるのだと思って過ごしてきました。しかし今回の矢部先生のお話を聞いて、その人にはそれが正しかったかもしれないけれど、それが自分にとってはどうなのか?という事を考え直してみるという事を学ばせて頂きました。

またクラウドファンディングで朝ごはんの動画をみて、あの大学生の方たちの実践する行動力にとっても感銘を受けました。私はお米をとぐことはできますが、その後のもう一歩の行動力はありません。お米のときかたを知らなかった彼らからしたら、お店を出すことなんてとてつもなく不安だったと思いますが、まず実践してみる、マチにダイブするという意気込みが彼らと彼らのまわりの大人を動かしたんだと観ていて思いました。とても良い授業でした。

今回の総合科学入門講座の矢部先生の講義の内容は、現代日本ならではの解釈のもとで地域創生を捉えていて非常に面白かった。特に面白いと感じたのは、人口が拡大から縮小へと転じた今日では、大都市ではなく地方が最先端であるという考え方である。私は地方創生に関心があったのだが、やはりどこか大都市を中心に地方の特色を見ているところがあってはっとさせられた。それと同時に、地方創生が日本全体の将来の重要な課題であるのだと感じ、地方を俯瞰的に見つめようと思った。また、名古屋市立大学の「クラウドファンディングで朝ごはん」では、学生が主体となった地域おこしの可能性をリアルに感じることができた。私もそのような活動に参加してみたいと思ったが、地元の人の支えやつながりが不可欠で、強い意志と行動力と責任が重要であるので、中途半端な気持ちでは行えないのだなと思い、身が引き締まった。

今回、名古屋市立大学の「駅西あさごはん」という活動を初めて知った。自分たちの調査で駅西にはファストフード以外に朝ごはんを食べられるところが少ないのがわかり、質の高い朝ごはんを食べられる場を作るという行動は駅西の活性化に貢献したのではないかと考える。そして、そのような活動は駅西に限らず、徳島でもできないものかと思った。もし、行うならばどこでするのが適切か調査して、地域に貢献したい。

「駅西朝ごはん」が取り上げられたニュースをみたとき、この大学生たちは私とほとんど年も変わらないのに自主的に行うなんてすごいと感じるとともに、もともと料理ができ、コミュニケーション力があつた人たちだからできたのだろうと思った。そして、私は料理は苦手だから、きっと無理だろうとも感じた。

しかし、2つ目の矢部先生がたくさん出てきた方の動画を見て、米のとぎ方も知らなかったような学生たちが朝ごはんを提供しているのだと知り、「できない」じゃなくて「できるようにする」ために努力することが重要なのだと思った。最初から無理と決めつけずに、地域のために自分のできることを増やしていきたい。

また、私はこれまでヤドカリ方式とクラウドファンディングという方法を知らなかった。ヤドカリ方式によって店舗にかかる費用を大幅に抑え、クラウドファンディングで資金を多くの人から資金を募るのはコスト面で非常に助けられる。それとともに、地域の人、多くの人の援助があって「駅西朝ごはん」は成り立っているのだと思った。

「駅西朝ごはん」が駅西のひとをつなげることができるよう、尽力したのがよく分かった。私も大学在学中に徳島を活性化させるためには何が必要か知り、行動に移していきたい。そして、風の人と土の人をつなげることができたらいいと思った。

最後に、矢部先生の話は本当に面白かった。

今回の講義では、名古屋市立大学の学生の「駅西あさごはん」という町づくり事業から学んだ。人口拡大社会から人口減少社会となり、これまでの常識が通らない現代社会において、学生はただ大学に通うだけではなく、外のフィールドを開拓し自分の意志で行動することが必要であることが分かった。クラウドファンディングでの資金集めやヤドカリ方式での店舗確保、インターネットで適切な情報を得ることは現代ならではの手法である。これらを駆使し、新しいものを創造する力が求められている。

私も大学進学で愛媛から徳島にきたので、同じ状況下でこのようなプロジェクトをするのはとてもすごいと思う。自分の地元でなくても人が集まる町を目指す町づくりに貢献するし、地元の方々とのコミュニケーションをしっかりとっている姿は尊敬できる。

「駅西あさごはん」を通して、自分の意志で行動し実践から学ぶ大切さがわかった。とても面白かったし、刺激を受けた。私もこれからの学生生活で自分の意志をもって社会に貢献できる事業に参加したいと思った。

液状化する社会ーバウマン

バウマンが言うように、今日では社会は個人化しているようだ。人口の減少によって今日の社会は、これまでのものとは変わってきている。そのため、所属が未来につながるといった先例は信じられなくなっている。先例を頼りにするのではなく、この先の何十年かを見る必要があるようだ。そして、人口減少社会では、地方の問題が最先端となると伺った。

名古屋市立大学の地方創生活動を見て、相当の努力が必要だが、クラウドファンディングをすることで学生でも、活動が十分にできることが分かった。町の状態を分析して、収入目的ではなく町のためになることを企画するという点に魅力を感じた。私も街について考えてみたい、そのためにも、地方創生を学びたいと思った。

今回は、「現場に出て考える:クラウドファンディングで朝ごはん」というテーマでの授業だった。まず初めに、物事において何が大切かや、物事の真偽を自分で見極めることが重要であると教わった。

私は特に、先例を信じてはいけないということが非常に頷けた。私たちにとっての先例というのは、現在と異なった状況下でのことであり、それらはほとんど意味を成さないからである。日本でのその先例は、人口が増加中の時のことであり、現在では人口は減少しているのである。つまり、社会の動きや見方が変化しているのである。確かに、温故知新という言葉もあるように、先人に学ぶこともあるが、社会情勢が異なっているのだから、それに伴った対応や対策は変えなければならない。

そして、今回のメインテーマだが、全てが自主活動である名古屋市立大学の学生が名古屋駅西を活性化するために朝ご飯の店を開くというものであった。この映像等を見たことにより、私たち徳島大学生も同等のことは可能であることがわかる。なぜなら、この事業を行ったのも大学生だからである。クラウドファンディングで資金を集め、ビジネスまでは及ばなくとも、学生なりに街に活気を与えることはできるのだ。この事例は、地域の活性化を考えている徳島にとっては非常に勉強になる。また、机に向かってあれこれと考えるばかりではなく、実際にその地に降り立って実践することが必要であると学んだ。

今回の授業は矢部先生による、クラウドファンディングを利用した地域創生についての講義だった。大学に入ってから、これまでの学生生活とは違う講義スタイルに毎度驚かされてきたが、今回の矢部先生の授業はいろいろとぶっちゃけすぎているという意味で新鮮なものだった。

最初に、現場に出ても学生がメモを取らないという現状を引き合いに出し、しっかりとメモを取れるようになる練習をすることを言われ、次にケータイはすぐにはわからないことを調べられるように講義中使っても OK と言われた。ここまでは成程と聞いていたが、キャリアプラン入門の授業内容について、教えている内容がちぐはぐであるとか、教えている先生の年齢が年齢なのでそのころの経験を持ち出しても現代には通用しないとか、色々いちゃもんをつけだした辺りからこの先生はすごいことを言うなあと思気も飛んでいった。

僕も旧態依然とした形式ばったことは嫌いなので、何とかその型枠から脱したいとは思っていたが、これまでその型枠に嵌りっぱなしな生き方をしてきたものだからどうすればいいのだろうと悩んでいた。すると矢部先生が諸先生の講義のやり方について説得力を持って切り崩していくものだから、何か自分の中でも一つタガが外れたような気分になった。授業の主題は矢部先生の専門の地域創生に関して、名古屋市立大学の学生さんのクラウドファンディングを使った朝ごはん専門店出店のプロジェクトの説明に移った。昨今人口減、地方振興を謳った物語なりドキュメンタリーなりが脚光を浴びているが、恐らく実際の地域振興というものはそれ以上にもっと大変で中々思うように行かないものなのだろうことは、今回のお話を聞いて想像できたような気がする。しかし、成功するか否かは判らないまでも現場に出て実情を知り、何か新しいことをすることはできるということでは言われた。その一歩が地方創生の第一歩なのだろう。

今回の授業では、法学部だから弁護士、など〇〇学部だから〇〇にならないといけないというのはおかしいと言っていたことに共感した。2000年頃の人口拡大社会から現在は人口減少社会へと変わっていつているので、今までの考え方は通用せず、新しい時代に対応するために現場に出て、自分で確かめることが大切だと学んだ。実践から学ぶには自分の意志で行動できているかが大切で、大学で勉強するだけでなく常に外で実践(field work)するというのを「クラウドファンディングで朝ご飯」の例から学べた。学生でも、先生や周りの大人の力を借りて、クラウドファンディングで資金を集めてこのような事業ができ、町おこしの第一歩の力になれるんだと分かった。仲間と一緒に本気で、計画を立てたり、準備をしたりして実際に朝ご飯屋さんを運営して楽しそうだと思った。

本日の講義は受ける前から気になっていた。「クラウドファンディングで朝ご飯」という題で、一体何をどうしたら実在しないものから朝ご飯を作り出すのかなどと錬金術的な何かを若干予想していたのだが予想通り予想は裏切られた。今回の内容はクラウドファンディングで資金を集めそれを元手に学生たちが朝食屋を営むというものであった。今回の講義の感想は、私の予想を裏入りはしたものの大変興味深い内容であった。また、私はクラウドファンディングについて全くの無知であるためクラウドファンディングについて知ることができたので大変感謝している。

今回の講義で最も心に残ったのは、「話が進むのは飲みの席にて」という内容だ。会合やセミナーなどに参加するだけではあまり意味がなく、その後の飲み会(特に二次会)に参加す

るようなやる気のある人たちと飲みの席で腹を割って話すことこそが進展を生むということであった。私はこの話にとっても共感できた。私が今参加している「イノベーションチャレンジクラブ」で同じような体験をしたからである。いつもの活動が終わった後、一度企業の方にご飯に連れて行ってもらったことがある。この時企業の方も先生も我々学生も腹を割って話ができ普段の活動では話してくれないような話までしてもらえた記憶がある。

このように腹を割って話合う場を持たせることで話が進み新たな考えが生まれるのだらうなと痛感した。

はじめは自分たちと同じ大学生が店舗を企画、運営し、テレビでも報道されたと知って、本当にすごいことだと思った。しかし、実際に動いて多くの人から技術的、金銭的な協力を得たのは学生ではなかったことを知り、学生にできることは若さと勢いで自分たちのやりたいこと、興味のあることをやってみることはないかと考えた。そのためには自分の意見を周りに発信し、同じ想いを持っている人を探すことが重要である。そして多くの人からの協力を無駄にしないことが大切であると考えた。また、お金にならないが将来のための経験にはなることを思いっきりできるのは大学生である今だけだとも感じた。

大学の学部に沿ってその人の将来が決まるのは昔の考え方であるという風に仰っていたので、逆に考えてみると、今は保障された未来はないから自分のことは自分で見つけなければならないということだと思った。敷かれたレールの上を走るなという言葉もあるが、まさにその通りで、自分が何をしたいのか、自分の力量でどんなことが出来るのかを客観的に見て見なければならない。

今日のビデオにあったように、大学生でも地域のためにアクションを起こせるし、少しでも貢献することが出来る。少子高齢化の現代だからこそ、我々の世代が行動すべきだと思った。

今は、昔の「常識」が通用しない時代になっている。何が正しいのかを自分の行動と目によって確かめなければならない。

今回の授業で、昔と今とは時代が全く違うんだなと再確認した。「どこかに所属していることと未来がつながらない」という言葉を聞いて、固定観念にずっと執着していたのだなと過去の自分を振り返った。

授業の中で、クラウドファンディングをして自らでお店を開いていた学生を見て、まずは実践することが大事なのだなと思った。学生たちも言っていた通り、自分たちを追い込むということが本気を出せる源だなと自分なりに考えた。

徳島県はだんだんと衰退していているため、私も授業の中で見たような学生さんみたいに「町にダイブする」をモットーに実践していきたい。

この度の授業では地域活性化の方法の一つの事例としてのやり方を学んだ。この授業を受けてまず、はじめに驚いた事は一番初めに紹介していた学生食堂のニュースでは学生が何にも苦勞せずに簡単に物事を成し遂げていくように見えた。私もはじめはこのことに気づくことが出来ず、誰でも行動力があれば簡単にできるものだと誤解していた。しかし、二番目に見た同じ題材を取り扱ったニュースでは私のこれまでの考えが大きく覆された。その学生食堂の学生たちはこの事業を成功させるのにたくさんの人たちの力を借りて、苦勞して成し遂げたことだったのだ。

ここで、私は、映像は編集の仕方によって相手に異なる印象を与えることができるということに確信した。先日、河原崎教授の「アーツ・アンド・テクノロジー」という講義で映像はその映像が取られたときに相手に与えると考えられる印象でも、映像を一部分切り取り、様々な映像を組み合わせることで異なる印象を相手に与えることができるということ学んだ。私は、はじめはあまり実感が持てずにいたが今回の講義を受け、実際に比べることで河原崎教授がおっしゃっていたことに実感を持った。

今回は、液状化する社会・個人化する社会人の中でこれからの社会で活躍していく私たちはどうしていくべきなのかということを考えさせられる授業であったと思いました。

また、時代は常に変動していて先例を信じて模倣するだけでは意味が無く、自分の意思で行動し実践しながら学んでいくということがとても重要であると感じました。

そして、大学内だけで活動範囲を決めるのではなく外のフィールドを持つことで人脈や自分の可能性もどんどん広がっていくということも高原さんの動画をみて感じました。"

人口拡大社会から人口縮小社会に変わり、今まで成功していたことが成功しないようになっている。新しい時代に適応するには、何事も自分で経験しなければならない。しかし、行動を起こそうとしても、善意だけでは成り立たず、相手に利益を示さねばならない。人脈、経験を持つ大学の先生に協力を仰ぐべきだ。意外と飲み会が重要だということも分かった。

地元やその地域のために「どんなことが出来るか」や「何をやればその地域が活性化さ

れるか」を考えることも、もちろん難しいことだけれど、それをいかに実行に移せるかはもっと難しいことで、それをやってのけたことだけでなく、実際に活性化に貢献した名古屋市大の大学生はすばらしいと思うし、一人一人が本当に役に立とうという気持ちがある証拠だった。それを実行しなかったり、成功に繋がらなくても、誰も批判しないのに、途中で投げ出さなかったことは尊敬する。人のためになることをじっこうすることやその実行力は見習いたい。

今回の授業で私が重要だと考えたのは、自分の意志で行動することの大切さだ。授業でやらされていることではなく、自分自身の意志でやりたいと思ったことを実践することで、様々な課題を見つけ、成長することができる。総合科学部だから、という固定観念を持たず、先生の言う先例を信じすぎず、自分の意志で行動するべきだ。

さらに、情報リテラシーを身につけることも重要だと考えた。メディアは時に事実とは異なることを報道することもある。伝え方次第でも受け手の印象は大きく変わってくる。ゆえに、日々流れている情報を鵜呑みにするのではなく、自分で情報を精査していくべきだ。

今回の講義は、まず先例を信じてはいけないという話から始まった。今教わっている先生方が生きた時代と、現代は大きく異なっているため、教えてもらった通りに行動しても成功する確率は低いのである。極端な例として、バブル時代の生き方と現代の生活の仕方を考えると、確かにバブル時代のやり方を参考にしても現代では絶対に通用しない。

では、どうやって大学で学んだらよいのか。実践から学ぶのである。講義の中でお話しされた名古屋市立大学では、学生が主体的に朝ごはんの専門店を実際に営んでいた。その目的は、活性化から取り残されそうになっていた地域の活性化であった。店舗はヤドカリで、店主がお店を使用しないときに使わせてもらうというやり方であった。これなら、自分たちで店を立てる必要もなく、お金もかからない。資金調達の方法として、クラウドファンディングを使用していた。この方法は、企業から支援金を募るもので、自分たちで起業するための大金を用意する必要はないが、他人から援助してもらったお金のため簡単にやめることは出来ない。そのような負荷があったからこそ、計画してから実行までやり抜くことができたのである。

お店のメニューであるお茶漬けだが、矢部先生は美味しいからこそお客さんは食べてくれるのだと話されていた。たしかに、味が悪ければ食べようと思わないし、お客さんも集まってこない。なぜ、名古屋市立大学の学生が、料理に対して素人なのに商売ができるようなお茶漬けが作れたかということ、プロの料理人の方の助けがあったからだという。ほ

かにも地元の漁師の方とのつながりが強いなど、お店が成功できた背景には様々な方の協力があってからだと分かった。

大学生に求められるのは能動的に行動すること、そして自分の意志で行動することである。名古屋市立大学の学生のように、自分たちで計画を立て実行に移すことは簡単ではない。しかし、そのような活動ができる人材は社会でも必要とされるはずである。また、たとえ成功しなかったとしても、問題点など次に活かせる何かは得られるため、私も大学在学中に何かできることを考え、やってみたいと思えた。今回の講義で、大学生でも本気でしようと思えば、できることはたくさんあるのだということ学んだ。

我々は個人化する社会の中にいるため、所属と未来が繋がらない。そのため、人口がどんどん増える上向きの社会を生き、大人の一般的な成功例は今や通用しなくなっている。我々はむやみに先例を信じず、自分で確かめるしかないのだ。今では、学部によって将来が必ずしも決まるということはない。また、徳島大学の授業だけでは学問の面白さが分からないことが多い。

そこで、自分の意思で行動することが大切だ。クラウドファンディングは、インターネットなどで、見ず知らずの人から資金を募る方法である。また、ヤドカリは、営業時間外の店を借りる方法だ。懇親会の二次会では面白い話が聞けたり、支援を受けたりする方向に繋がりやすいので非常に大切である。このような方法などを使って、自分で行動することが重要なのである。

私たちの親世代や今の成功者の話は時代が違うから真似してもあまり効果がないという意見は、よく考えたらわかることだけど私は今まで気がついていなかったです。私たちがしないといけないことは、やっぱり、そういう人たちの先例を参考にしながら周りや状況をよく観察して、自分のしたいことができるように自分のしなければいけないことを考えなければならないということだろうなと思いました。

クラウドファンディングで資金を集めてお店を開いた大学生の話は、50万円もの大金を大学生の活動で集めたのはすごいなと思いました。その50万円をどういう風に使ったのか、利益はあったのか、あったとしたらどれほどだったのか、それともなかったのか気になりました。そして、同世代の同じ大学生がしていて、できたことだから自分も何かできることを探してやってみたいなと思いました。

今回の総科入門の授業を聞いて、自分の意思で実際に自分で何かやってみる、一步踏み込んでみると違う世界が見えるということが分かった。また人口拡大社会から人口減少社会になっていく中で、これまでの常識が通用しなくなり、だからこそ先例を信じず実際に現場に出て考えるということも変化の激しい現代では重要な考え方だと思った。また授業中に見たクラウドファンディングで朝ごはんに関する 2 つのニュースをみて、テーマは同じでも焦点を当てる角度や誰が焦点を当てるかによって内容が違ってくことを改めて感じ、それはこれからにおいて情報を選択していく上でも念頭に置いておくべきことだと思った。

今回の講義を通して、高校と大学の学び方のギャップが一番印象に残った。高校の時は担任の先生が毎日出欠確認をし、来ていない人には電話をしていた。それは高校での勉強が強制的なものであるためである。しかし大学では、カードリーダーは存在するが、かざさなくても誰にも何も言われない。全ては自己責任である。授業を受けて「面白くない」とか「何言ってるかわからない」と感じることも多々あるが、それは高校での「生徒たちの成績をあげる」という先生のスタイルとは異なるからであり、自ら学ぶ姿勢が大事であり、用語などわからない事項がある場合は事前に自分で調べてから授業に望む姿勢をとることで、大学での「自ら学ぶ」精神に適応できると感じた。

そのため私はこれから、積極的に学ぶ姿勢を大切にしていこうと決めた。

今回の授業のポイントの一つは、自分の意志を持つということだ。授業でもあった通り、今の社会では個人化が進んでおり、将来の選択肢は多様化している。また、現在はたいして好景気でもなく、何も考えず呑気に大学生活を送って卒業したらそれなりの職に就ける時代はとっくに終わってしまったので、自分が何を考え何をしたいのかがはっきりしていない人と、目的を自分の中で明確に持っている人であったら、誰でも後者を選ぶ時代だからである。社会に取り残され、自分を見失わないために、自分の意志を持つことは重要である。

もう一つは、まず行動に移すということだ。なぜなら、意思を持つだけでは事態が動くことはないからだ。名古屋市立大学の話でも、周囲の大人達の手を借りながらではあるが、実際に学生が動いたことで、企画が現実のものとなっていった。小さな一歩でも、一人が始めると、周りの人も巻き込んでやがて大きな一歩となるかも知れない。行動に移すことはきっかけにすぎないが、何もしないよりはましである。実行する際に投げ出すことの

ない強い意志と、失敗を恐れず行動する力の両方が大切である。

今回の授業では、地方の活性化についての話であった。今までの日本では、人口が増加し拡大社会であったが、現在人口が減少し縮小社会になった。そこで、今までみてきた大都市の問題から地方の問題について、みていかなければならなくなった。そんな中、名古屋市立大学の学生がクラウドファンディングを行った。駅西で高速バスに乗ってきた人や地元の人々をターゲットにし、朝ご飯を提供するお店を始めた。駅西はこれまで治安のよい場所ではなく、駅東と比べて発展していなかった。だが、そのような場所で大学生がお店を始めたということで、徐々にお客さんも増え始めテレビでも紹介された。テレビでは、大学生が自分たちでお店を始めたと紹介されていたが、実際には、先生方の協力の下でお店を始めることができた。資金をインターネットで集めたり、調理方法を先生の知り合いの方に協力していただいたりということであった。メディアの情報はすべて正しいものではないのである。現在では、このお店はやっていないが、駅西の活性化に少しの間だけでも貢献した。

今回の授業では、先例を踏破し、未来につながるアクションを主体的に起こすことが大切だ、ということデータをデータや具体例を交えながら繰り返し提唱していた。名古屋市立大学学生の街おこし事業も、駅西に対する先入観を捨て今の駅西の状況を検討し、柔軟な発想で主体的に行動した結果上手くいったのだろうと思った。

更に、ネットと人を活用することがこれから何かをするときに大切だとも思った。ただ前者は、情報源としては玉石混合であるため、ネットリテラシーの習得が求められる。また後者の活用のために、私たちがすべきことで見逃されがちなのは、人材に出会う前の周到な準備である。これがあってこそ、自分の立てた目標の達成が近づく。

以上二点がこの授業で特に印象に残ったことだ。

名古屋市立大学の学生が自らが主体となって「駅西あさごはん」を運営するということがとても強い印象を受けました。実行力にとっても驚きました。朝早くに空いているゆっくりにできる店はないということで、駅西の活性化を考えるうえでもとても良いプロジェクトだと思います。実際、これにより本当に活性化に貢献していると目に見えてわかることは難しいと思います。しかし、その地域との繋がりができることは確かです。学生が一生

懸命自分たちの地域を活性化しようとしているということが、その地域で生活する人や、商売をする人に勇気を与えるということが一番の役割な気がします。このプロジェクトが後押しをするということです。それは、その地域の人たちだけでなく私たちもそうです。大きな影響を受け、刺激をもらいました。学生にこんなことができるのかと驚きとともに、自分もしたいと思えました。どこかに所属していることと未来がつながらない今、考えるだけでなく、自分の意志で実践する力が必要だということがよくわかりました。

高専の先生を思い出す授業でした。やろうと思えば出来ないこともないんだなど。コネはやはりフル活用するべきだと感じました。

今回の総合科学入門講座の内容は、「クラウドファンディングで朝ごはん」というテーマのものだった。

「名古屋市立大学の学生が駅西で、地域活性化の一環として授業外の企画で朝ごはんの店を出す」という内容のビデオを観て、それについて詳しい話も聞いた。その中で見つけたポイントは2つあり、それは「やってみないと分からない」ということと、「信用が必要」ということである。

まず1つ目について。ビデオを観る前に「どこに所属していても、未来につながるとは限らない」と話していたことと関係している。それは、どこに所属していてもどうなるかわからないが、そこで自分がアクションを起こして何かやって経験してみたら、自分なりの「何か」は掴めるかもしれないということだ。どこかに所属していることに安心するのではなく、そこから自分自身で経験や行動したりする中で、その経験を将来に繋げていくことができる。それがこれからの社会で重要なことだと学んだ。

2つ目の「信用が必要」ということについて。クラウドファンディングで資金を募るにしても、人との利害関係やつながりにしても、当然のことのようにだが信用が不可欠である。つまり人が金を使う時または人を選ぶ際は、その金を使う先・人を選ぶ基準として信用があるということだ。例えば、国そのものや投資する先の人、その人へ信頼、仕事や実績の肩書、利害関係、いずれにせよ何らかの信用がないと、大抵金も人も動くことはない。

主に、上記の2つのことを私はこの講義から学んだ。

町づくりについて詳しく知ることができた。自分は、地域創生コースに行きたいと思っているので、興味を持って聞くことができた。

私は今日の授業を聞いて、矢部先生は私達に行動力を身につけて欲しいのだと思った。なぜなら、今の時代パソコンやスマートフォンから手軽に情報を手に入れることが出来るが、それらを活用すると言うのは、情報を元に自身や他の人達に役に立つことを行うことで初めて言える言葉だからだ。

言うは易く行うは難しという諺があるように、やってみようと思ったり口に出したりするのは容易に出来る。しかし、行動力が足りなければ実際に行われることは無く、折角良い情報を手に入れても宝の持ち腐れである。今回の授業で扱われた例で言うと、大阪でヤドカリ方式で営業するヤドカリカレーが流行っているという情報を得た学生が、実際に名古屋の駅西で朝方にヤドカリ方式でお茶漬けの店を開店させて、駅西の活性化に繋げようとしたというものだ。これこそが情報を活用させたと言える例であろう。ここまでの取り組みをするのは、例えバックアップがあったとしても大変なことであり、行動力が無ければ決して成し得ない。

以上のことから、行動力の大切さというのが、今日の授業のポイントである。

今の時代、ある特定の集団(学部など)に所属していたら、あの職業につくというようなケースは少なくなってきた。また人口拡大社会に生きた先生の授業内での話は現在の人口減少社会において通用するのはごく一部かもしれない。

だから、これまでの常識が通用しなくなってきた今、私たちは、先例とは違う状況下でも考えられる能力を身につけていかなければならない。そのためには、大学生のうちに何かにチャレンジするのが良いだろう。そこで重要なのは「自分の意志で行動できているか」ということだ。やはり自分の意志がなければ長く続けることはできないし、何かを身につけることは難しいだろう。

「クラウドファンディングで朝ご飯」という学生の自主活動の例を聞いて、自分たちの努力はもちろん必要であるが、それだけでは不十分だということが分かった。活動を進めていくためにはいろんな分野の人の助けも必要になってくる。それも善意だけでは関係は成立せず、お互いの利益も考えなければいけない時もある。しかし、まずは行動することが大事で周りの大人に相談したりして試みることから始めてみるのもいいかもしれない。

普通の大学生にでも、町のため、市のために何か出来るのではと考えさせられた。周りの人たちも同様であったようだ。起業スキルを身につけようとビジネス本を買った人や、町おこしのためにフィールドワークに出た人もいた。このような授業は我々無知な学生に

将来の目標と明確な道を示す大事なツールとなるのではないだろうか。